



Annual Report of International Office  
Kagawa University

April 2017-March 2018

香川大学  
インターナショナルオフィス  
年報 第9号 (2017年度)

I nternational

香川大学  
インターナショナルオフィス  
年報 第9号

O ffice



KAGAWA  
UNIVERSITY

2017年度 (平成29年度)

# 香川大学インターナショナルオフィス年報

第9号(2017年度)

## 目次

巻頭言	1
<b>I. インターナショナルオフィス全体に関わる報告</b>	
1. インターナショナルオフィス	3
2. 香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題	4
3. 4 & 1 プラン進捗状況	6
4. 平成29年度インターナショナルオフィス年間行事	10
5. 学長・インターナショナルオフィス長表敬訪問	12
6. インターナショナルウィーク(2017年12月1日～12月11日)	15
7. 危機管理セミナー(FD・SD)	18
8. 留学生宿舍	19
9. JICAとの連携	21
10. イングリッシュ・カフェ	23
<b>II. 国際研究支援センターに関わる報告</b>	
1. 国際共同研究支援事業	26
2. 外部資金獲得支援事業	26
3. 外国人研究者等の受け入れ状況	27
4. 学術交流協定大学との交流状況	28
<b>III. 留学生センターに関わる報告</b>	
<b>【留学生の受入】</b>	
1. 留学生センター日本語教育カリキュラム等	31
参考資料1 平成29年度前期日本語関連授業時間割	
参考資料2 平成29年度後期日本語関連授業時間割	
参考資料3 留学生センター所属国費留学生一覧	
2. さぬきプログラム	39
3. 各部局主催のJASSO「留学交流支援制度」助成による短期受入プログラムにおける日本語授業	43
<b>【留学生支援】</b>	
1. 留学生対象各種進学説明会	45
2. 課外教育行事	46
3. 国際交流活動	48
4. 就職支援プログラム	49
5. 相談業務	51
<b>【学生の海外派遣】</b>	
1. EXPLORE ーブルネイ・ダルサラーム大学及びチェンマイ大学との支援留学制度	53
2. 「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」による海外派遣	54
3. 全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」(台湾における研修)	56
4. 全学共通科目「Study Abroad」	58
5. 海外語学研修プログラム(韓国語)	59
<b>【資料】</b>	
1. 学術交流協定一覧	61
2. インターナショナルオフィス規則	64
3. インターナショナルオフィス会議規程	67
4. 国際研究支援センター規程	69
5. 留学生センター規程	71
6. 教職員一覧	73

## 巻 頭 言

インターナショナルオフィス長 徳 田 雅 明

平成29年度版のインターナショナルオフィス年報の出版にあたり、ご挨拶申し上げます。まず関係各位には、日頃より香川大学インターナショナルオフィス(Kagawa University International Office: KUIO)の活動にご理解とご支援をいただき、感謝しております。皆様方のご支援が無ければ我々の活動は成り立ちません。

香川大学インターナショナルオフィスは、留学生センターと国際研究支援センターからなります。留学生センターは、留学生の受け入れ、日本語教育や日本文化について教授し、さらに地域の国際交流団体などとの交流活動を推進しています。一方国際研究支援センターは、大学が国際社会に貢献する重点的な国際研究への支援や、海外教育研究交流拠点大学とのネットワークの強化などを司っています。

イギリスの教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション (THE) 社の「THE 世界大学ランキング2017-2018」において、香川大学は601-800位にランクインしました。このランキングは、世界88か国の1万8千以上の大学を対象としており、世界で最も影響力のある大学ランキングといわれています。エントリーがあった大学のうち1000大学がランキングとして発表され、日本の大学は71大学がランクインしました。香川大学がランクインした601-800位は、日本の大学では13位～29位に相当します。同じくTHE アジア大学ランキングでは175位でした。中国・四国地区においては、広島大学、岡山大学に次ぐ3番目でした。

平成29年12月にインターナショナルオフィスと国際グループは、従前の研究交流棟4階から、幸町南キャンパスの南2号館1階に移転しました。講義棟のほか図書館、大学会館、アカデミックコモンズなどを含めた「スチューデントゾーン」の一角に位置することになり、学生の皆さんからのアクセスも格段に良くなりました。香川大学のスクールカラーの緑を基調として優しい表情をしたインターナショナルオフィスに、どうぞ遠慮なくお越しく下さい。ここを拠点として、グローバル化を強力に進めることで、世界の大学の中で輝ける大学にしていきたいと思っております。それが留学生を増やすことにも、また、海外に出て活躍を期する日本人学生を増やすことにもつながることでしょう。

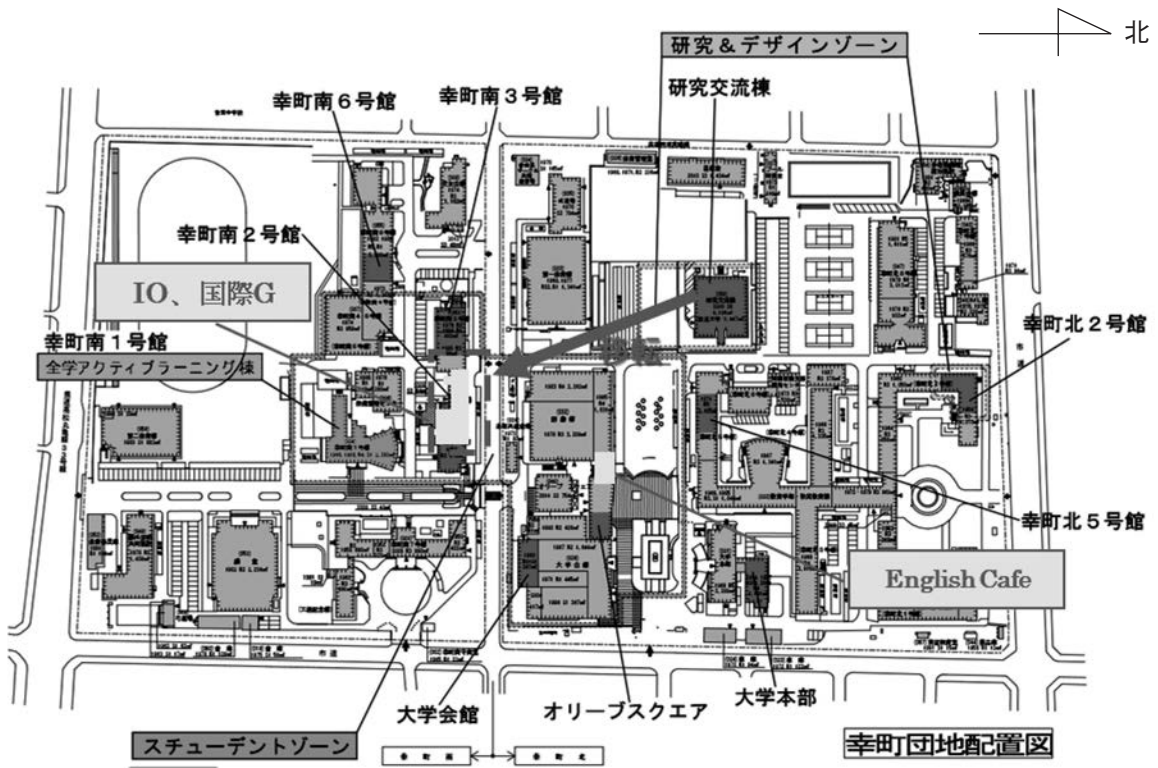
末筆になりますが、引き続きまして皆様のあたたかいご指導とご協力をくださいますよう、お願いいたします。



インターナショナルオフィスの入口前で



新しい国際ナショナルオフィス (IO)

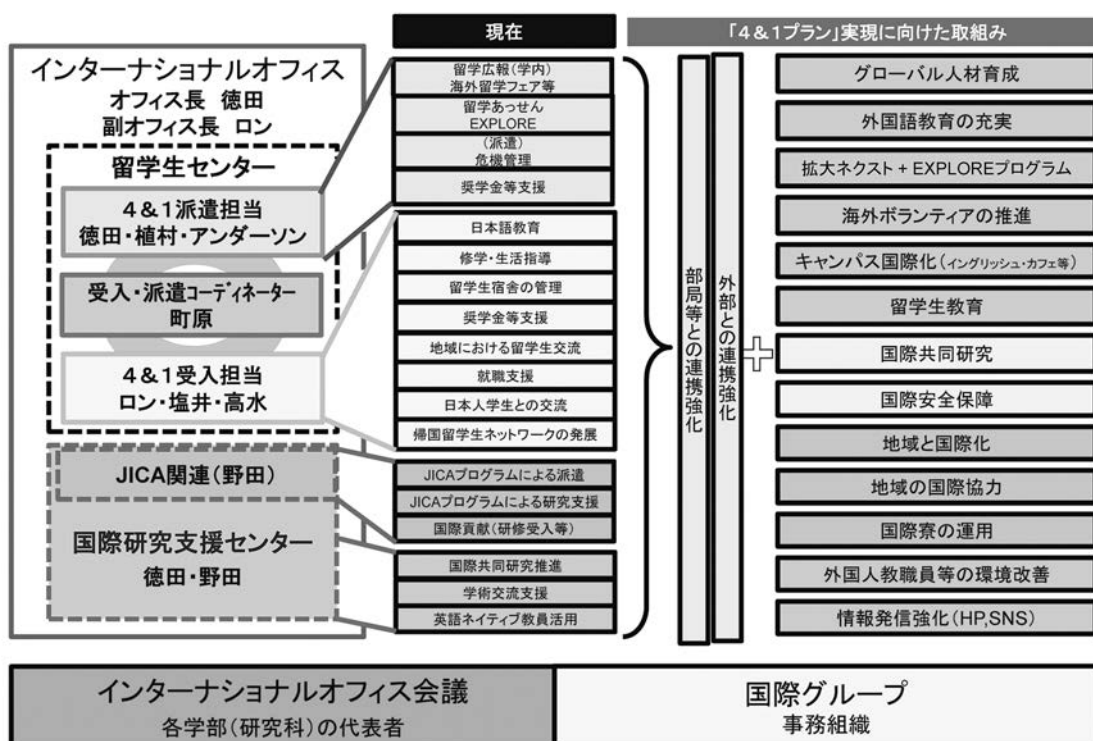


# I インターナショナルオフィス全体に関わる報告

## 1. インターナショナルオフィス

インターナショナルオフィスは、香川大学の国際交流の窓口機関として、平成21年4月に設置された。情報収集及び発信を一元化すると共に、国際戦略の構築並びに教育研究等の国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進することで、本学並びに地域の国際交流を推進することを目指している。

インターナショナルオフィスの体制



インターナショナルオフィスには、国際研究支援センター (Center for International Research and Cooperation) と留学生センター (International Student Center) の2つのセンターと、事務組織としての国際グループがある。

さらに、各部局の代表者などからなる、インターナショナルオフィス会議が設置されており、教授会に相当する機能を持ち審議事項などを上程している。

### (1) 国際研究支援センター

インターナショナルオフィスの中の一つのセンターとして平成22年4月に設置されたのが、国際研究支援センターである。大学の国際戦略に基づき、大学が国際社会に貢献する重点的な国際的研究への支援、海外教育研究交流拠点大学とのネットワークの強化、部局等による国際的な学術交流の取り組み支援、部局等組織を超えた学内外研究者間の情報連携・共同研究への環境整備など、その役割・機能は多岐に及んでいる。

また、JICA、JST、JSPSなどとの連携のもとに、助成事業への応募などを実施する組織である。

## (2) 留学生センター

留学生センターの歴史は古く、香川大学における国際交流推進を目的として、平成15年4月に学内共同教育研究施設として設置された。平成21年4月に設立されたインターナショナルオフィスの傘下に新たに配置された。

留学生センターは7つの役割を担っている。

- ① 日本語教育の実施
- ② 留学生に対する日常生活上の助言
- ③ 短期プログラムやスタディ・ツアーへの学生の派遣や受け入れ
- ④ 様々な方法による情報発信
- ⑤ 日本語教育や留学生教育に関する研究
- ⑥ 国際交流促進のための各種団体との協力
- ⑦ 各種の支援活動による留学生の生活の向上

こうした支援を実施することにより、多くの留学生が香川大学キャンパスで学び、日本の文化や香川の生活に慣れ親しみ、勉学に集中することができる環境作りを行っていく。そして彼らが香川大学を自らの学び舎として愛着を持ち、彼らの将来において貴重な留学として輝くものとなるようにしていく。

## (3) インターナショナルオフィス教員

(併) オフィス長、国際研究支援センター長、教授、副学長	徳田 雅明
(併) 副オフィス長、留学生センター長、教授	ロン リム
客員教授	野田 久尚
講師	高水 徹
講師	塩井 実香
特命講師	植村友香子
非常勤教員	町原 友梨
非常勤教員	マーク アンダーソン

## 2. 香川大学の国際化の基本方針と重点戦略課題

### (1) 香川大学の国際化の基本方針

#### ○地域に根ざした国際化

- 社会・経済のグローバル化や地球規模の課題に対応し、アジア・太平洋諸国等をはじめ、広く国際社会に貢献できる分野を重点に、海外の大学・研究機関等との学術・研究交流を促進する。
- 大学の持つ国際化に関する知識・経験やネットワークを地域と共有し、地域の行政、企業、住民等の国際化へのニーズに応える。
- 人と人とのつながりを基本に、地域の様々な国際交流活動との連携を深め、地域の国際化に貢献する。

#### ○国際的通用性を備えた人材の育成

- 世界で活躍できる国際性豊かなグローバル人材を育成するとともに、アジア・太平洋諸国等から優れた留学生・研究者を受け入れ、相互の人材育成・交流を促す、双方向のグローバル教育を実

践する。

- 世界を舞台とする社会貢献やキャリアデザインにつながるグローバルな学生交流の機会を提供する「世界の若者に開かれた大学」を目指す。
- 海外留学や国際ボランティアなど、国際的な視野を拡げ、経験を豊かにする学生の活動を積極的に支援する。

#### ○国際化のための環境整備

- 海外の大学等との学生・研究者の相互派遣の拡大に向け、海外交流拠点のネットワーク整備を進めるとともに、教職員や学生による国際的な研究・交流活動を積極的に支援する。
- 国際的な学術交流の促進に向け、研究環境のより一層の充実・強化を図るとともに、留学生の生活面を含めた教育環境の整備を地域の支援・協力を得ながら進める。
- 多様な言語やライフスタイルを持つ海外からの留学生・研究者と本学学生・教職員との自由闊達な交流を促す「キャンパスの国際化」を推進する。

#### (2) 重点戦略課題

- 海外の大学・研究機関等との間で重点化すべき学術・研究交流分野の抽出並びに情報発信
  - ・各学部における研究成果や研究テーマの整理データベース化、国際的な学術交流ニーズ、国際社会への貢献可能性などを踏まえ、重点分野を抽出し、ターゲットとすべき大学・研究者等に向けて情報発信
- 地域を交えた国際交流活動などによる地域の国際化への貢献
  - ・地域の自治体や企業等の交流ニーズを踏まえ、協定大学をはじめ、相互交流を促進する相手国・大学等を重点化するとともに、地域を交えた国際交流活動などを通じ、地域の国際化に貢献
- グローバル人材の育成に向けたプログラム化
  - ①グローバル人材に求められる能力要素を踏まえて教育プログラムを見直し、各学部・大学院カリキュラムに反映（例：英語による教養・専門科目、ディベートなどの必修化、各年次・卒業までに到達する語学力の目標水準を能力に応じて設定し、着実に達成）
  - ②協定大学とのネットワークを活かした多言語プログラムや多様な留学コースを設置し、単位化するなどにより、学生の国際的視野を早期に拡大
  - ③アジア・太平洋諸国等から優秀な留学生や研究者を受け入れ、本学の学生との一体的な教育や、研究者間相互の学術交流を促す特色あるコースを設置し、大学のブランド化を促進
- 海外交流拠点のネットワークを効果的に整備するため、協定大学を重点対象として、交流内容や諸条件を打診・調整
- 留学生・外国人研究者のニーズや視点に立った支援の仕組みを整備するとともに、「キャンパスの国際化」を実現
  - ①留学生・外国人研究者のキャリア形成と地域社会の国際化ニーズをマッチングする仕組みを、地域の行政や企業等の支援・協力を得ながら構築
  - ②多言語による情報提供のシステム化や、美しく安全で快適なキャンパスを目指した点検・整備

香川大学では、この国際化の基本方針と重点戦略課題に沿った活動を展開している。

グローバル人材の育成をより重点的に行うために、平成25年度に留学生の受け入れ促進と日本人学

生の中長期派遣強化を定量的に示したスローガンとして「4 & 1 プラン」を策定した。このプランは平成25年度から10年後の平成34年度に留学生受入400名、派遣学生100名（3ヵ月以上）を目指すもので、第3期中期目標・中期計画においても、香川大学の重点項目として挙げられている。この目標達成のためには、上記重点戦略課題を着実に遂行する必要がある。4 & 1 プランについては、次項で詳細に紹介する。

### (3) THE 世界大学ランキング・アジア大学ランキング

海外展開をより強力に推進するために、自らの大学の世界における位置を知ることも大切であるとして、今年度はじめてイギリスの教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（Times Higher Education：THE）にアプライした。このランキングは、大学ごとに「研究者からの評価」「学生1人あたりの教員数」「外国人教員比率」「留学生比率」「教員1人あたりの論文引用数」などの基準で評価した総合点を算出し、ランキング形式で発表されるものである。

平成29年9月5日に発表された「THE 世界大学ランキング2017-2018」では、香川大学は601-800にランクインした。このランキングは、世界88か国の1万8千以上の大学を対象としており、世界で最も影響力のある大学ランキングといわれている。エントリーがあった大学のうち1000大学がランキングとして発表され、日本の大学は71大学がランクインした。香川大学がランクインした601-800位は、日本の大学では13位～29位に相当するもので、この枠には、国立大学では広島大学、高知大学、神戸大学、岡山大学など、私立大学では慶應義塾大学、早稲田大学、順天堂大学、東京理科大学などがランキングされている。

また、THEでは平成30年2月6日に「THE（Times Higher Education）アジア大学ランキング2018」を発表した。これでは香川大学は175位にランクインした。「THE 世界大学ランキング」にエントリーした大学について、その地域の特性に応じて算出方法を調整してランキングしたもので、13の指標（スコア）の合計で、アジア地域の大学が格付けされている。香川大学がランクインした175位は、日本国内の大学では25位に相当し、中国・四国地区においては、広島大学（109位）、岡山大学（168位）に次ぐ、3番目となっている。

香川大学では、THE 世界大学ランキング・アジア大学ランキングを国際化の指標のひとつとして、広報活動やリクルート活動に活用している。また、今後さらに国際化を活性化することにより、ランキングを挙げることに繋がると考えている。

## 3. 4 & 1 プラン進捗状況

### (1) 4 & 1 プランとは

香川大学のグローバル化を推進することを目指して平成25年度に設定した目標であり、10年後の平成34年度に留学生受入400名、派遣学生100名（3ヵ月以上）を目指している。第3期中期目標・中期計画においても、香川大学の重点項目として挙げられている。

以下に示すように、留学生受け入れを増やすための事業として、

【1】 渡日生活支援事業（国際寮の運営、留学生を支援するサポーターやチューターの配置、日本語の授業提供など）を実施する。

【2】 海外派遣支援事業（ネイティブスピーカーによる指導、イングリッシュ・カフェなどでの語学力アップのプログラム提供、各種派遣プログラムの提供など）を立ち上げる。

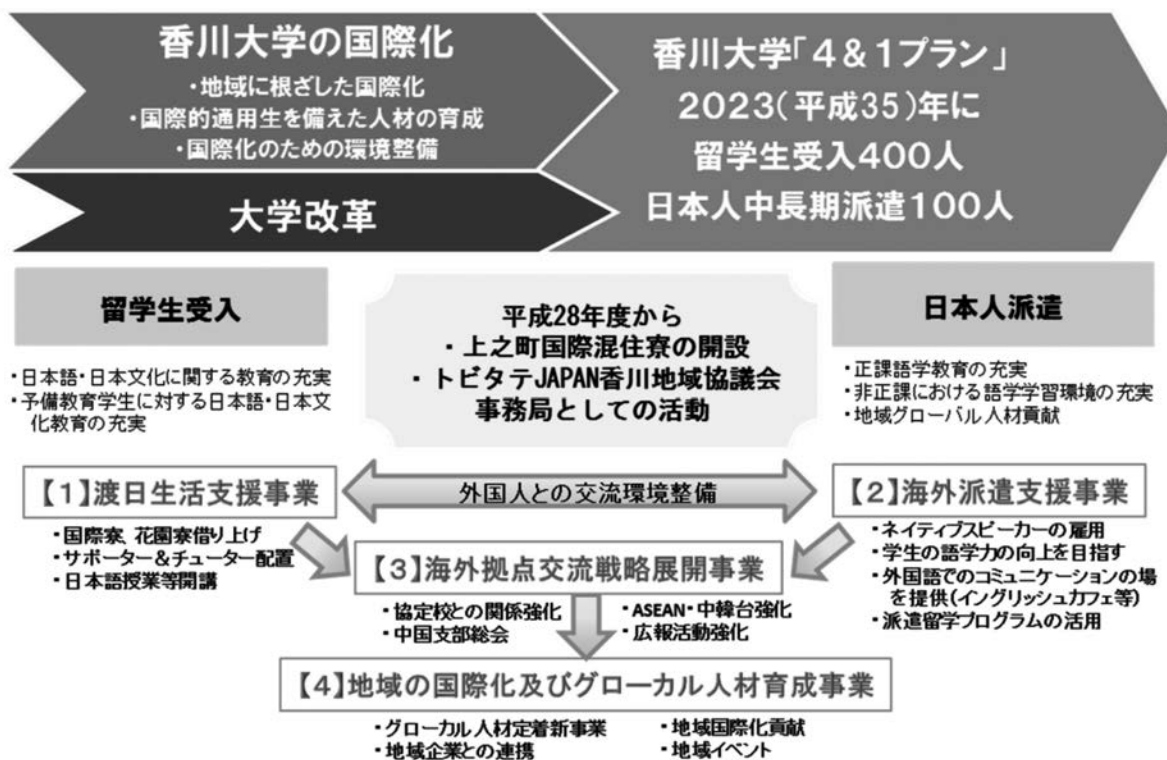


これらと並行して、【1】【2】の効率的実現のために

【3】海外拠点交流戦略展開事業（ASEAN諸国と中国・韓国・台湾を中心に、協定校の関係強化や増加、同窓会活動の強化、広報活動の強化など）を展開する。

また、香川大学のグローバル化を地域に還元するために

【4】地域の国際化及びグローバル人材育成事業（グローバル人材の地域企業への就職、地域企業との連携、地域のイベントや国際事業への協力など）を実施する。



(2) 4 & 1 プランの現状

	H25	H26	H27	H28	H29	H33	H34
受入	240	256	267	271	345	360	400
派遣（3ヶ月以上） （ ）は派遣総数	17 (239)	32 (239)	39 (310)	40 (281)	43 (241)	88	100

平成28年度で留学生受入271名、3ヵ月以上の派遣学生40名だった。受入も派遣も一定程度増加しているが、第3期中期目標の中間評価を受ける平成31年度には、受入300名・派遣55名、終了年度である平成33年度には、受入360名・派遣88名を達成する必要があるため、今後さらに強化していかなければならない。

そのためには、平成28年度から全学4 & 1 ワーキンググループが中心となり全学推進体制をいっそう強化すること、学長・役員会の状況認識を得て、特に派遣を推進するために協力を仰ぎ、学長から全学部に「グローバル化」の重要性を強く発信してもらうこと、などを進める。また個々の部局およびインターナショナルオフィスの目標値を定め、それをクリアするための具体的な方策を立案することが必要となる。

(3) インターナショナルオフィスの受入プログラム「さぬきプログラム (Version 2)」

インターナショナルオフィスが主催している「さぬきプログラム」のバージョンアップを目指し、以下のような工夫を行うこととした。

- 受け入れ時期を4月と10月の年2回とする。
- 日本語、日本文化・日本事情に加えて、香川大学の特徴ある研究を踏まえた講義や学内施設見学を行う。
- 各部局から英語によるコンテンツの提供を受け、魅力を高める。
- 学長、役員など「大学の顔」や外部講師による講義をお願いする。
- 協定校からの留学生を増やすために重点的な広報活動をする。
- 各部局が同プログラムの一部を利用できるよう工夫する。

この結果、平成28年度には履修者6名であったのが、平成29年度は27名に増加した。

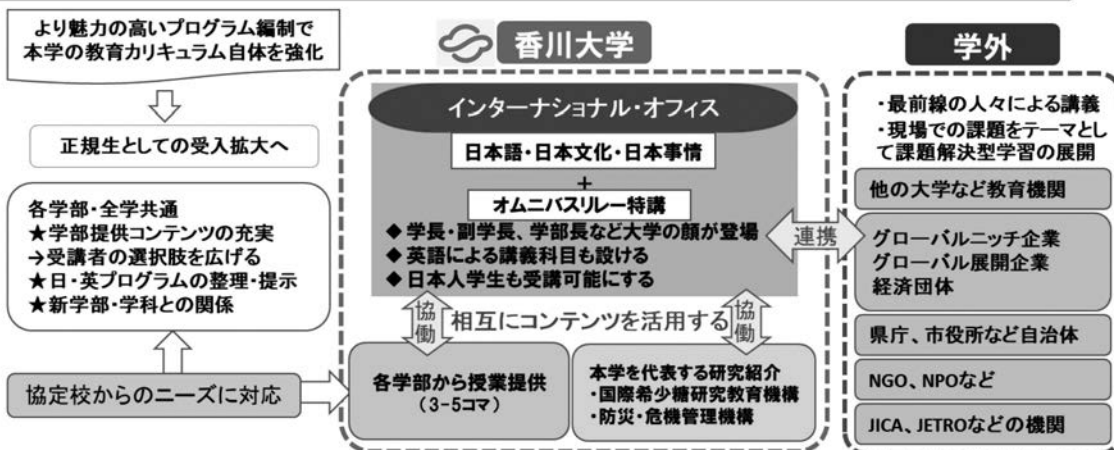
受け入れ

インターナショナルオフィスと学部が協働する  
～ さぬきプログラム Ver. 2 ～

協定校を中心に留学生をリクルートする



香川らしさを活かしながら「オンリーワン in Japan (全国でも香川大学だけ)」な  
魅力と特徴のあるプログラム作りを目指す



(4) インターナショナルオフィスの派遣プログラム

1) EXPLOREプログラム

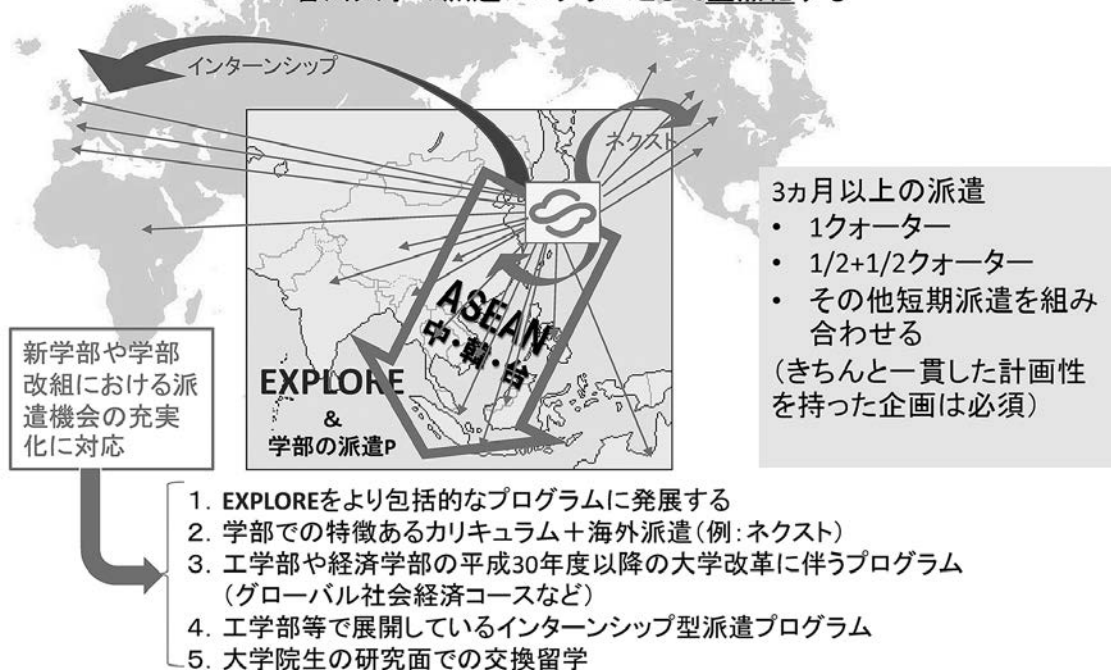
- ブルネイ・ダルサラーム大学 (ブルネイ・ダルサラーム国) およびチェンマイ大学 (タイ王国) において、1年を限度として授業の履修や研究指導などを受けることができる留学制度。
- この制度を2大学のみならず他の協定校 (特にASEAN、中国・韓国・台湾地域) に拡大することを旨とする。

## 派遣

インターナショナルオフィスと学部が協働する

### 協定校を中心とした EXPLOREプログラム の拡大

ASEAN+中・韓・台をメインターゲットとして全学の派遣プログラムを集約し  
香川大学の派遣プログラムとして重点化する



今後の課題としては以下のようなことが挙げられる。

- 語学力の向上(特に英語力)。
- 3ヶ月以上留学しやすい学年暦、カリキュラムの設定。
- 必修科目のないクォーターの設置。
- 大学改革との連携。
- 奨学金などの支援対策強化。

#### 2) 短期語学研修 (Study Abroad)

- 夏季・春季休暇期間を利用して、1ヶ月程度、海外の大学で語学研修等を受けるプログラム。
- 世界の学生や教員と交友を深めることで、「生きた英語力」と「国際感覚」を高めることができる。
- カルガリー大学(カナダ)、西オーストラリア大学(オーストラリア)に加えて、ブルネイ・ダルサラーム大学(ブルネイ)を増やす予定。
- 短期間なので、初めて海外に行く人や海外経験が少ない人向け。

#### 3) 海外体験型異文化コミュニケーション(文化研修)

- 8月~9月におよそ2週間実施する、海外異文化体験の入門プログラム。
- 台湾中部の嘉義市に位置する国立嘉義大学に行き、台湾について現地ですぶだけでなく、現地での学生同士とディスカッションを通して、国際コミュニケーション力を養うことができる。

#### 4) トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム(全国コース・地域人材コース)

- 28日～2年までの期間で海外留学を志す学生に対し、奨学金の支給や事前事後研修の提供などを行い、官民協働で留学支援を行うプログラム。
- 全国コースと地域人材コース（地域企業等でのインターンシップを組み合わせたプログラム）がある。

(5) イングリッシュ・カフェの体制整備

イングリッシュ・カフェは、オリーブスクエア2階にあり、日本人学生のグローバル意識を高めるために、各種コミュニケーションプログラム、TOEICやIELTSなどの演習、異文化理解プログラムなどを提供している。



(6) FDの開催

平成30年3月22日に、農学部4&1プランの実現に向けて農学部国際交流委員会FDを2部構成で実施した。

- 4&1プランの実現に向けて－香川大学の国際交流の現状とインターナショナルオフィスの取組（講演者；インターナショナルオフィス長 徳田雅明副学長）
- 4&1プランの実現に向けて－農学部国際交流の現状と課題（講演者；農学部国際交流委員長 川村理教授）

今後も4&1プランの理解を深めていくよう、FDなどの開催を進めていく。

#### 4. 平成29年度インターナショナルオフィス年間行事

行 事		協定の締結・更新
3月	27日 留学生会館ガイダンス 27日 春期さぬきプログラム開講式	
4月	5日 新生ガイダンス（花園寮ガイダンス含む）・歓迎会（情報交換会） 6日 上之町国際寮ガイダンス	28日 香川大学とエックカード大学との学術交流協定の締結
5月	20日 第1回課外教育行事 22日 香川県留学生等国際交流連絡協議会運営委員会	16日 香川大学経済学部とチェンマイ大学経済学部の学術交流協定の更新 24日 香川大学とガジャマダ大学との学術交流協定に基づく学生交流に関する実施細則の締結
6月	21日 香川県留学生等国際交流連絡協議会総会 24日 花園寮交流会 26日 トビタテ！留学JAPAN香川地域活性化グローバル人材育成プログラム派遣留学生帰国報告会	
7月	1日 ホームビジット第1期1日目 8日 上之町国際寮交流会 8日 ホームビジット第1期2日目 22日 留学生会館交流会 23日 香川地域活性化グローバル人材育成プログラム第7期生対象事前オリエンテーション（香川地域人材育成コース協議会主催） 26日 春期さぬきプログラム修了式／外国人留学生及びチューター等意見交換・反省会	
8月	4日 夏季 海外渡航者向け 危機管理セミナー	1日 香川大学と中国文化大学との学術交流協定の締結

	4日 外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談会&交流会	16日 香川大学と台湾中央気象局との科学交流協定の締結
	9日 香川地域活性化グローバル人材育成プログラム第7期派遣留学生壮行会（香川地域人材育成コース協議会主催）	18日 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構と国立中正大学地球環境学科系との覚書の締結
9月	27日 留学生サポーター・チューターガイダンス	
10月	3日 秋期さぬきプログラム開講式	1日 香川大学とコロラド州立大学との国際交流協定覚書の更新
	7日 新入生ガイダンス（寮ガイダンス含む）・歓迎会（情報交換会）	17日 香川大学と西北大学との学術交流協定等の更新
		17日 香川大学経済学部と西北大学経済管理学院との学術交流実施細則の更新
		25日 香川大学工学部及び大学院工学研究科と中華人民共和国北京理工大学生命学院との学術交流協定等の更新
		25日 香川大学と天津理工大学との学術交流協定等の更新
		31日 香川大学と中東工科大学との学術交流協定等の締結
11月	6日 留学生就職活動準備セミナー	8日 香川大学工学部及び大学院工学研究科とトレド大学との学術交流協定等の更新
	11日 第2回留学生課外教育行事	9日 香川大学とカリフォルニア州フラトン校との学術交流協定の更新
	19日～22日 第6回国立嘉義大学・香川大学合同ワークショップ	19日 香川大学とパリ電子電気工学技術高等学院との学術交流協定等の更新
		21日 香川大学工学部及び大学院工学研究科とパリ電子電気工学技術高等学院とのインターンシッププログラムに関する協定の更新
12月	1日 中国大学生友好交流訪日団との交流	11日 香川大学農学部及び大学院農学研究科とチェンマイ大学農産学部及び大学院農産学研究科との学術交流協定に関する実施細則の更新
	1日～11日 インターナショナルウィーク	12日 香川大学農学部及び大学院農学研究科とチェンマイ大学農産学部及び大学院農産学研究科との学術交流協定に関する実施細則の更新
	2日 ホームビジット第2期1日目	13日 香川大学とブルネイ・ダルサラーム大学との学術交流協定の更新
	3日 第3回English Presentation Contest	17日 香川大学農学部及び大学院農学研究科とカセサート大学農産学部及び大学院農産学研究科との学術交流協定に関する実施細則の更新
	4日～8日 ハラルフードウィーク	18日 香川大学と韓国海洋大学校との学術交流協定に基づく学生交流に関する実施細則等の更新
	6日 留学炉端会議	
	6日 留学生採用支援セミナー&交流会	
	9日 ホームビジット第2期2日目	
	11日 学長主催外国人留学生交歓会	
1月	12日 企業見学会	31日 香川大学とガジヤマダ大学との学術交流協定の更新
	27日 香川県留学生等国際交流連絡協議会設立30周年記念行事	
2月	14日 秋期さぬきプログラム修了式/外国人留学生及びチューター等意見交換・反省会	4日 香川大学とディボネゴロ大学との学術交流協定等の更新
	15日 冬季 海外渡航者向け 危機管理セミナー	
3月	8日 ビジネスマナー講座	11日 香川大学と州立ロンドリーナ大学との学術交流協定等の更新
	9日 トビタテ！留学JAPAN香川地域活性化グローバル人材育成プログラム第2回派遣留学生	11日 香川大学農学部及び大学院農学研究科とカセサート大学農産学部（バンケン）及び大学院農学研究科（バンケン）との学術交流協定に関する実施細則等の更新
	26日 留学生サポーター・チューターガイダンス	

## 5. 学長・国際オフィス長表敬訪問

### ■平成29年 5月30日

国際オフィス長表敬

来訪者：エッカード大学（アメリカ）

Eileen B. Mikals-Adachi 学科長、

Dr. Jesse Sherry 助教授ほか

学生 6名

概要：教育学部で実施している「さぬきエコプログラム」に参加



### ■平成29年 7月27日

国際オフィス長表敬

来訪者：ディポネゴロ大学（インドネシア）

Yos Johan Utama 学長ほか7名

概要：学術交流に関する意見交換



### ■平成29年 6月19日

国際オフィス長表敬

来訪者：ツール大学プロワ技術短期大学部  
（フランス）

Dr. Patrick Laffez 教授

Dr. Christine Farmer 教授

概要：学術・学生交流に関する意見交換



### ■平成29年 8月22日

国際オフィス長表敬

来訪者：海外からの短期交流学生

台湾・カンボジア・中国・インドネシア・フィリピン・タイ・マレーシア・ベトナム・ブラジル・トルコ・アメリカ・イギリス・ブルネイにある協定校等に在籍する外国人学生25名

概要：本学農学部で実施する「食品の安全・機能解析教育に関する東南アジア等の大学間体験学習型プログラム」に参加

### ■平成29年 7月18日

国際オフィス長表敬

来訪者：JSTが実施する「さくらサイエンスプラン」により招聘された研究者7名（タイ・ベトナム・中国）

概要：農学部の食品研究に関するプログラム参加



■平成29年11月10日

国際ナショナルオフィス長表敬

来訪者：JSTが実施する「さくらサイエンスプラン」により招聘された研究者12名（タイ、ブルネイ、ミャンマーやベトナム、マレーシア）

概要：香川で確立した学際的な生活習慣病の予防・管理戦略の研修



■平成29年12月11日

国際ナショナルオフィス長表敬

来訪者：Dr. Akkharawit Kanjana-Opas タイ王国・国家科学技術・イノベーション政策局副事務総長ほか研究者11名

概要：研究内容紹介及び意見交換



■平成29年11月13日

国際ナショナルオフィス長表敬

来訪者：2017年度日系研修員受入事業(JICA)に基づく研修員2名  
伊藤アレハンドロさん（メキシコ）  
仲村渠（ナカンダカリ）グスタボさん（ブラジル）

概要：柔道練習参加と柔道指導法の理解



■平成29年12月14日

国際ナショナルオフィス長表敬

来訪者：JICA青年研修「タイ／生活習慣病予防」コース研修員、ブルネイ・ダルサラーム大学の学生

概要：生活習慣病予防対策や取り組みに関する研修、本学医学部の短期交流プログラム参加



■平成29年11月13日

国際ナショナルオフィス長表敬

来訪者：JSTが実施する「さくらサイエンスプラン」により招聘された研究者10名（バンドン工科大学・インドネシア）

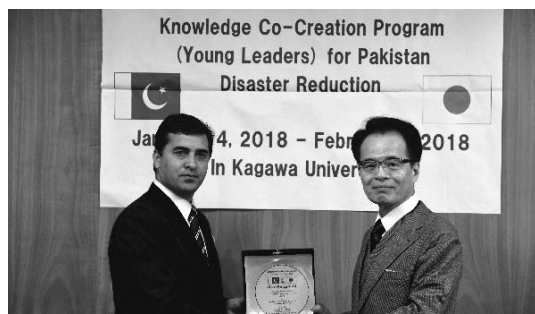
概要：本学の四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構が実施している減災科学（レジリエンスサイエンス）について学ぶ

■平成30年1月29日

国際ナショナルオフィス長表敬

来訪者：JICA青年研修「パキスタン／防災」コース研修員（パキスタン若手防災行政担当職員）9名

概要：本学の防災リテラシー・コンピテンシー養成講座や四国防災・危機管理特別プログラムのカリキュラム受講



■平成30年 1 月 29 日

学長表敬

来訪者：在京都フランス総領事 ジャン・マチュー ボネル氏

概要：総領事館や関係文化機関の活動の紹介、本学における国際交流などの情報交換、意見交換



■平成30年 2 月 8 日

学長表敬

来訪者：中国科技大学（中国）俞明德学長ほか4名

概要：両大学間における連携の可能性、今後の交流に関する意見交換



■平成30年 2 月 15 日

インターナショナルオフィス長表敬

来訪者：チェンマイ大学（タイ）学生4名

概要：本学教育学部短期交流学生受入プログラム参加



■平成30年 3 月 15 日

インターナショナルオフィス長表敬

来訪者：コロラド州立大学（アメリカ）学生4名

概要：本学教育学部短期交流学生受入プログラム参加



■平成30年 3 月 26 日

インターナショナルオフィス長表敬

来訪者：西北大学（中国）常江副学長ほか3名

概要：学術・学生交流に関する意見交換





## 6. インターナショナルウィーク（2017年12月1日～12月11日）

本学における国際交流活動を広く周知し、海外留学への関心を高めることを目的に、生協や図書館等でのパネル展示、セミナーや交流会等を行った。以下に主だった活動について紹介する。

### (1) 「日中植林・植樹国際連帯事業」中国大学生友好交流訪日団との交流（12月1日）

この事業は、植林等を通じて環境及び防災意識の啓発を図るために日中両政府が行っているもので、香川県の友好提携都市である陝西省の大学生45名と引率教員5名が2017年11月30日から12月3日にかけて香川県を訪問した。

12月1日には本学を訪問し、「国際協力論」の授業において当授業を履修している日本人学生と交流を行った。最初は英語によるコミュニケーションにぎこちなさが見られたものの、小グループに分かれてのキャンパスツアーや、昼食を共にしながらお互いの学生生活について紹介するという活動を通してぎこちなさも取れ、最後は名残惜しそうにバスを見送っていた学生もいた。



**香川大学**  
**インターナショナルウィーク**  
**International Week**  
**2017年 12月1日(金)～12月11日(月)**

- 12/1**  
～  
**12/22**

**パネル展示**  
 研究交流棟1階・4階、図書館中央館2階ロビー、大学生協内、教育学部415教室前、オーパススクエア2階学習プログラム、★学術交流協定校の紹介や海外留学・研修プログラム、インターナショナルオフィス各部署の取組を紹介しています。期間中、いつでもご覧いただけます。
- 12/3**  
(日)

**English Presentation Contest**  
 日時: 12月3日(日) 10:00～14:30  
 場所: 幸町キャンパス オリーブスクエア2階 多目的ホール  
 ★学生が興味のあるテーマについて英語で発表します。日熟したプレゼンバトルを乞うご期待!
- 12/5**  
(火)

**「南米の日系人社会と柔道」(講演)**  
 日時: 12月5日(火) 12:00～13:00  
 場所: 幸町キャンパス オリーブスクエア2階 教職員ラウンジ  
 講師: MCA 日本研修員2名(キチシユ、フジノ出身)  
 ★既に国際的なスポーツとなっている柔道ですが、南米ではどのように広がっていったのか、現在の人気等について日本人2名によるプレゼンとディスカッションを行います。※使用言語は英語です
- 12/6**  
(水)

**「留学炉端会議」(セミナー)**  
 日時: 12月6日(水) 14:00～16:00  
 場所: 幸町キャンパス オリーブスクエア2階 教職員ラウンジ  
 ★留学経験者、留學生に留学中の経験を聞いてもらいます。その後、お茶を飲みながら自由に質疑応答を行います。留学について気味に情報交換しませんか？
- 12/8**  
(金)

**途上国の水問題を考えよう(授業)**  
 日時: 12月8日(金) 10:30～12:00  
 場所: 幸町キャンパス 研究交流棟5階  
 ★アフリカの17国から16名が「国際協力論」の授業に参加し、アフリカ地域の水問題について発表します。  
 ※授業履修者以外の参加希望者は12月1日までに野田(noda@cc.kagawa-u.ac.jp)まで連絡ください。

問合せはインターナショナルオフィスまで⇒ <http://www.kagawa-u.ac.jp/kulo/>

この期間ハラルフードウィークも実施します！詳細は別紙参照ください。

参加申込みは締め切りましたが、他にも実施しています！

12/1(金) 10:00～14:00 中国大学生友好交流訪日団 香川大学訪問  
 12/2(土)・12/9(土) 「2017年外国人留學生かわわホームビジット」(香川県留學生等国際交流連絡協議会主催)  
 12/11(月) 18:00～20:00 学長主催外国人留學生交流会

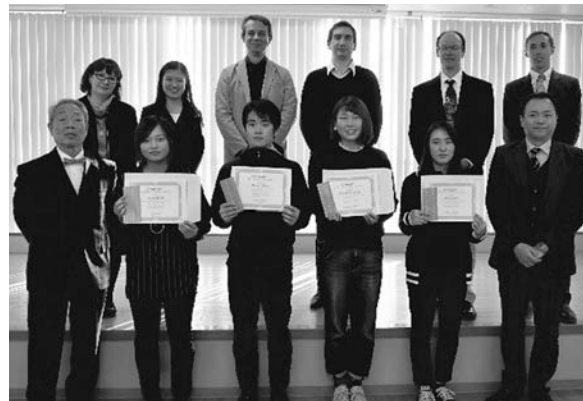
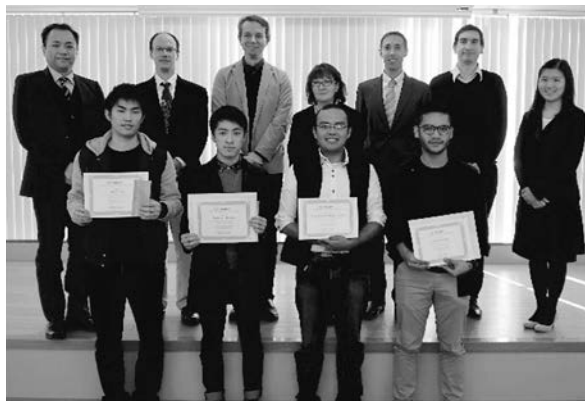
### (2) 第3回English Presentation Contest（12月3日）

このコンテストは、留学経験のある学生（グループ1）と留学経験のない学生（グループ2）の2グループに分かれて英語による発表を競うものである。それぞれ13名の学生が参加し、各自が自由に選んだ幅広い内容について一人5分以内での発表があった。参加者の中には外国人留學生もおり、緊張感のあるコンテストとなった。発表者と演目は以下のとおりである。

グループ1	題目
Nashrul Hazim Bin a Aziz (工1)	Ghosts in Japan
藤坂 真奈 (経4)	My Life as a Tutor
Gana Pranomya (さぬきP)	Student Activism
岡崎 恵里 (法3)	BUSU-Attractive Ugly
赤崎 夏子 (経2)	Under the Sea
福井 望 (経4)	Being a Security Guard

Jose Antonio Fermin Jimenez (農M1)	Let's Eat Tacos
吉田 勝俊 (工2)	Warning for Japanese
三浦 裕貴 (経4)	How to Use Time Wisely
中原 花奈 (工3)	The Future of Artificial Intelligence
Muhammad Aizat Bin Ahmad Sanusi (工1)	Unity in Diversity
Khalifa Ababacar Sy (工M1)	The State of Modern Slavery
畠中健太郎 (経4)	How to Prevent Dementia

グループ2	題 目
槇野 龍平 (経2)	Let's Start with Beer
安西 春樹 (工1)	Captain America
山本 朱莉 (農1)	Tattoo Culture
長山 好花 (経1)	DAGASHI-Japanese Snacks
宮川 友結 (医1)	Biological Clock and Injuries
足立 悠仁 (工1)	How to Use English Haiku for Societies
堀江将一朗 (教1)	My father doesn't move
本田 菖 (教1)	Boundary Line of Love and Hate
林 美玖 (経1)	Spirited Away
伊木 大貴 (教4)	The Comparison of English Education Between Japan and Some Asian Countries
那須 幸音 (教1)	Magic Trick-That Entertains Us-
成行 春香 (農1)	My Dream of Flowers
高田萌斗実 (経2)	OMOTENASHI -Hospitality for Tourists



発表後は理事及び教員4名による審査が行われ、構成、表現力、発表の仕方など、8つの項目について評価を行った結果、各グループから一等、二等が1名ずつ、三等2名が選ばれ、賞状と賞品が贈られた。

### (3) ハラルフードウィーク (12月4日～8日)

「ハラル」とはイスラム教の言葉で、イスラム教徒が「許されている」ことを意味する。イスラム教徒にとって、豚肉を食べることや飲酒は「ハラルではない」こと、つまり禁じられていることになる。

香川大学にはイスラム教徒の留学生も少なくなく、日本人学生に「ハラル」に関心をもってもらうため、生協の協力を得て全キャンパスでハラル食を提供する「ハラルフードウィーク」を実施した。その一日目には寛学長が幸町の生協食堂で留学生たちとハラルフードを食べながら歓談した。



寛学長が留学生たちとハラルランチ



#### (4) 講演「南米の日系人社会と柔道」(12月5日)

JICA日系研修員制度は、南米の日系人を日本に招いて研修を行うものである。香川大学では11月から12月まで、メキシコとブラジルから1名ずつ招いて柔道研修を行った。彼らがそれぞれの国における日系人社会と、今回の研修の目的である柔道について講演を行った。

#### (5) 留学炉端会議(12月6日)

「EXPLORE」「ネクストプログラム」「トビタテ！留学JAPAN」という異なるプログラムで留学した日本人学生と、現在、香川大学で学んでいる外国人留学生が留学体験を発表した。発表者は以下の7名である。

山口章浩 (EXPLORE、ブルネイ・ダルサラーム大学に留学)

松村圭悟 (EXPLORE、チェンマイ大学に留学)

藤坂真奈 (ネクストプログラム、カリフォルニア州立大学フラトン校に留学)

馬場春日 (トビタテ！留学JAPAN、米国に留学、インターンシップ実施)

請川雄哉 (トビタテ！留学JAPAN、インドネシアに留学、インターンシップ実施)

SIREMON KOTEKAEW (日本語・日本文化研修生、タイ出身)

ANTONIO FERMIN (国費留学生、メキシコ出身)

それぞれの体験に基づいた、実感のこもった留学活動報告であり、留学に関心のある学生に対する助言となる発表で、持ち時間をオーバーしつつ興味深い話が聞けた。

発表の最後に、ハラルをキーワードに留学生との交流を行う学生グループ「ハラリシ」メンバー(村井颯希さん)が活動報告を行った。

#### (6) 学長主催外国人留学生交歓会(12月11日)

外国人留学生、教職員及びチューター等日本人学生や、地域や国際交流団体の方々との親睦を深めるため、学長主催による外国人留学生交歓会をホテルパールガーデンにおいて開催し、275名が参加した。

司会は、毎回留学生が担当することになっており、今年度は工学部4年



Muhammad Thaqif Iqbal Bin Mokhtar さん、教育学研究科2年解馥竹さんが担当した。

寛学長の挨拶に続き、留学生代表のサイ カリファ アババカー（工学研究科1年）さんの挨拶、徳田副学長による乾杯の音頭で開会した。

懇談を挟み、中国、タイ、ベトナム、インドネシアの留学生による、お国柄を反映した華やかなパフォーマンスが披露された。



その後、日頃より支援をいただいている各種団体に感謝状の贈呈を行い、最後にロン留学生センター長による挨拶で閉会となった。

インターナショナルウィーク行事としては、以上に加えて、留学生が日本人家庭を訪問して交流する「2017外国人学生かがわホームビジット」（香川県留学生等国際交流連絡協議会主催）とアフリカ11か国の15名による途上国の水問題についての発表（「国際協力論」の授業で実施）を行った。



## 7. 危機管理セミナー（FD・SD）

平成25年度に発足した「4&1プラン」による日本人学生の派遣強化に伴い、学生のリスク管理のため、学生及び教職員を対象としたセミナーを年2回実施している。平成29年度は、2017年8月7日（金）と2018年2月15日（木）に、遠隔テレビ会議システムを利用し、幸町、工学部、農学部キャンパスを接続して実施、前期は約50名、後期は約



80名が参加した。

講師には、27年にわたりJTBツアーや法人団体ツアーを中心に海外添乗員として従事されている関口久仁子氏（J&Jヒューマンソリューションズ社）を両日ともお招きした。

インターナショナルオフィス長による挨拶のあと、関口氏による「海外研修／留学生のための海外リスクマネジメント」の講演、質疑応答が行われた。講演では、添乗員としての経験をもとに、出国前の準備、渡航中の注意事項や行動について、実践的な対応方法や予防についてお話いただいた。国・地域別に特に発生しうるリスクを最新の事例と共に紹介していただいたことで、参加した学生からは「実際に発生した事例を動画で紹介してくれたので、具体的な対処方法が分かり勉強になった」等の感想があった。

## 8. 留学生宿舎

インターナショナルオフィスでは、現在3棟の留学生宿舎を管理・運営している。

大学施設としては香川大学留学生会館を平成3年から運用しているが、平成25年度及び平成28年度より民間宿舎の借り上げを開始して受入留学生のニーズに応えるようにしている。

各寮では、新入生が入居する4月と10月に全入居者を対象とした入居者ガイダンスを実施している。また、学生主体による歓迎会や季節の行事（そうめん流し）も実施している。

### (1) 宿舎の概要

#### ①香川大学留学生会館

住所	高松市屋島中町
最大入居人数	32人
居室形態	個室
入居率	61.5%

**特徴** 幸町キャンパスから8kmに位置し、香川大学屋島寮（男子寮）に隣接している。32部屋の個室を有し、うち2部屋は外国人研究者が入居できることとしている。平日は管理人1名が常駐しており、管理人不在時の対応として、日本人学生2名をレジデンスチューターとして入居させている。主たる入居対象者を短期留学生としており、10月期からの交換留学生数が若干少なかったため、入居率が低かった。

#### ②香川大学花園寮

住所	高松市花園町
最大入居人数	15人
居室形態	個室
入居率	91.1%

**特徴** 民間企業が单身用宿舎として利用していた物件を借り上げたもので、幸町キャンパスから2.4kmに位置している。15部屋の個室を有し、留学生13名、日本人学生2名を入居させることとしている。平成29年度は借り上げ5年目の契約最終年度となったが、平成30

年度から5年間、期間を延長する契約を締結した。

### ③香川大学上之町国際寮

住所	高松市上之町
最大入居人数	46人
居室形態	2人で1戸をシェア
入居率	91.1%

**特徴** 民間企業が世帯用宿舎として利用していた物件を借り上げたもので、幸町キャンパスから3.7kmに位置している。留学生の生活をサポートすること、留学生とともに生活することで日本人学生の国際性を育てることを目的に、2人で1戸をシェアする「混住寮」とし、23戸46名分の居室と、共有スペースを設けた。各戸には、2人が共有で使用するダイニング、キッチン、シャワールーム等があり、個室も備えている。

#### (2) 地域との交流活動

平成29年6月24日（花園寮）、平成29年7月8日（上之町国際寮）、平成29年7月22日（留学生会館）に、それぞれ「そうめん流し」を実施した。これは、学生と寮近隣の地域の方々との交流を図るため、また、日本文化を体験することを目的として毎年実施しているものである。

留学生会館での実施には、香川県立三木高等学校からインターンシップ生として受け入れた生徒7名もスタッフとして参加、交流した。学生らは、そうめん流しの竹を設置したり、稲荷ずしを作ったりして、地域の方々をお迎えする準備に励み、自治会長様を始めとする多数の地域の方々に参加いただき、始終和やかな雰囲気の中で交流を深めた。



#### (3) 入居者間の交流活動

留学生会館では、2名のレジデンスチューターが企画し、新入生歓迎会を実施している。前期はプログラム開始が早かったこともあり、平成29年3月26日（日）に、後期は10月8日（土）に実施した。宿舎が観光スポットでもある屋島のふもとに位置していることから、皆で屋島登山し、屋島寺を訪問して日本文化にも触れることができた。登山後は寮内の集会室で、前期はたこ焼き、後期は餃子を作り、交流を深めた。ムスリムへの配慮から、いずれもハラール食材で手作りした。また、平成30年1月7日（日）には、ニューイヤーパーティーとして、書道体験で各人の目標を書き、ナイロンと割り箸で作った凧で凧揚げを楽しんだ。

上之町国際寮では、平成29年11月12日（日）に、入居者とそのチューターを対象にハラルに関する勉強会と交流会を実施した。ムスリムの留学生を支援する学生ボランティア団体の「hararisi」が中心となってハラルについての認識を深め、入居者の留学生がマレーシア、セネガルのハラル料理について実物を見せながら紹介した。参加者は皮や具材を工夫したハラル食材での焼き餃子作りと、留学生からのリクエストでおにぎり作りに挑戦した。粉からの皮作りは全員が初めての体験であったが、交流は大いに盛り上がり、また、相互理解を深めることができた。



## 9. JICAとの連携

インターナショナルオフィス 野田 久 尚

2017（平成29）年度におけるJICAとの連携は、JICAから本学への出向職員を中心に、JICA四国と連携して以下の業務を実施した。

### (1) 教育業務

- ①全学共通科目「国際協力論」担当
- ②さぬきプログラム関連講義「初級日本事情b」「プロジェクトさぬき」担当
- ③大学院工学研究科「国際・技術戦略論」への出講
- ④経済学部「現代経済社会事情」への出講

### (2) 国際交流業務

- ①JICA事業に関する本学関係者とJICAとの連絡調整
- ②上記事業申請等に係る助言
- ③JICA事業で受け入れた研修員等への指導及び支援
- ④途上国への留学を希望する学生への助言指導
- ⑤安全情報の収集と提供
- ⑥トビタテ！留学JAPAN「香川地域活性化グローバル人材育成プログラム」における地域コーディネーター

### (3) JICAとの協働事業

- ①草の根技術協力  
「カンボジア国カンダルスタン郡の衛生教育改善のための学校保健室体制の構築プロジェクト」

(契約期間2017.2.28 - 2020.2.27)

カンボジアの保健医療状況の改善をめざし、カンダルスタン郡の学校保健指導者の育成と学校保健室モデルの構築を行うもの。初年度は現地における衛生状況の確認、保健教材の作成、教育省及び学校関係者32名に対する本邦研修を実施した。



学校保健の講義



附属高松中学校保健室の見学



ゴミ出し体験



学校給食体験

## ②課題別研修

(ア)「妊産婦の健康改善 (C) 遠隔医療含む」(11ヵ国対象18名、受入期間2017.10.9 - 11.3)

妊産婦の健康改善も目指した「継続ケア」の強化を目的として、特に医療サービスの届きにくい離島や山間部といった地域において、遠隔医療を活用した我が国の取り組みを紹介し、途上国での適用を検討した。香川県内では小豆島を訪問し、離島の医療状況を学んだ。

(イ)「アフリカ地域村落飲料水管理 (B)」(11ヵ国対象15名、受入期間2017.11.7 - 12.15)

村落給水普及率の向上、給水施設の維持管理体制の向上を目的として、我が国の給水行政、地方自治体における水道管理の実情を学ぶとともに、雨が少なく水不足に悩まされてきた香川の経験と施策を、自国で多くの乾燥地域を抱える研修員に紹介した。

## ③青年研修

(ア)「タイ 生活習慣病対策」(14名、受入期間2017.12.4 - 12.21)

経済発展とともに途上国でも増加しつつある生活習慣病を予防・改善するため、「チーム香川」として香川が取り組んできた様々な施策を学ぶとともに、健康食品の開発として香川が取り組ん



でいる希少糖の取組についても紹介した。

(イ)「パキスタン 防災」(11名、受入期間2018.1.15-2.1)

頻発する自然災害に対して率先して防災活動を行うことのできるリーダー養成を目的として、香川大学が開発した3D防災教育訓練シュミレーター等を活用した実習を行った。

④日系研修

「柔道と日本文化」(2名、受入期間2017.11.5-12.15)

メキシコ並びにブラジルの日系人を招へいし、香川県柔道連盟の協力を得て県立武道館や警察等で柔道の練習を行うとともに、小中高各レベルにおける柔道の指導法を学んだ。また、香川大学で日本語及び日本事情についての授業に参加した。



また、香川大学で日本語及び日本事情についての授業に参加した。

⑤長期研修

「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ (ABEイニシアティブ)」

アフリカの若者を日本の大学院に受け入れて修士号を取得させ、修了後は日本企業で半年程度のインターンシップを行うプログラム。

第1バッチ 3名 (大学院農学研究科、受入期間2014.9.15-2017.9.15)

第2バッチ 4名 (大学院農学研究科、受入期間2015.9.6-2018.3.31)

第3バッチ 5名 (大学院農学研究科/経済学研究科、受入期間2016.9.1-2019.3.31 / 2019.9.30)

第4バッチ 2名 (大学院農学研究科、受入期間2017.9.6-2020.3.31)

⑥調査団派遣

「アルメニア 地方産品と地方ブランド開発プロジェクト フェーズ2」

2017年6月、本学教員が調査団に参加。

## 10. イングリッシュ・カフェ

香川大学イングリッシュ・カフェは、平成26年6月に幸町キャンパスの中央に完成したオリーブスクエア2階の北側中央にオープンした。本施設の目的は、本学学生の英語によるコミュニケーション能力を実践的に身に付けることに重点を置き、グローバル時代にふさわしい英語力を持った人材を育成することである。また留学生や海外からの研修生との交流などを通じて異文化理解の促進を図るための施設として機能する。

世界で活躍するためのグローバル人材として、必須となる英語を自分のコミュニケーション言語として使いこなせるように、ネイティブスピーカーによる指導や留学生との英会話を通じて、楽しみながら英語力を高めることのできる教育スペースである。また、主体的な学習習慣を育む学習空間として、英語による仲間同士や学生と教員の相互交流の場としても利用可能である。

イングリッシュ・カフェでは、インターナショナルオフィス教員や大学教育基盤センター教員などによる各種英語クラスや英語指導、ICES 香川大学異文化交流会による企画も実施しており、多様な学習機会を提供している。

イングリッシュ・カフェの運用は、インターナショナルオフィス、図書館、大学教育基盤センターの3者が協働して行っているため、運営体制を整備するために以下の規程を策定した。



### 香川大学イングリッシュ・カフェの運営に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、イングリッシュ・カフェ（以下「施設」という。）の運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 次の各号に掲げる事項を目的として、施設を置く。

- (1) 日本人学生の語学力向上並びに国際社会及び文化への理解促進
- (2) 外国人留学生の日本社会及び文化への理解促進
- (3) 日本人学生及び外国人留学生の交流促進
- (4) その他本学構成員及び地域住民等の語学力向上並びに国際社会及び文化への理解促進(運営体制)

第3条 施設を運営するために、香川大学イングリッシュ・カフェ運営委員会（以下「運営委員会」という。）を設け、次の各号に掲げる者により構成する。

- (1) インターナショナルオフィス長
- (2) 教育担当理事
- (3) 図書館長
- (4) 大学教育基盤センター長
- (5) 大学教育基盤センター国際教育部長
- (6) 留学生センター長
- (7) 修学支援グループリーダー
- (8) 国際グループリーダー
- (9) 情報図書グループリーダー
- (10) その他インターナショナルオフィス長が必要と認めた者

2 運営委員会の委員長は、インターナショナルオフィス長をもって充てる。

3 運営委員会は、次の各号に掲げる業務を所掌する。

- (1) 活動内容に関する方針の策定
- (2) 予算案の策定
- (3) 施設管理に関する方針の策定
- (4) その他施設の運営に関し必要な事項

4 施設の監督業務を行う者として、国際オフィスを職員1名を配置する。

(事務)

第4条 施設の運営に関する事務は、国際グループにおいて処理する。ただし、施設管理に関する事務は、学術・地域連携推進室情報図書グループにおいて処理する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

## Ⅱ 国際研究支援センターに関わる報告

香川大学が国際社会に貢献する重点的な国際研究への支援、海外教育研究交流拠点大学とのネットワークの強化、部局等による国際的な学術交流の取り組み支援、部局等組織を超えた学内外研究者間の情報連携・共同研究への環境整備・受け入れなど、その役割・機能は多岐に及んでいる。

### 1. 国際共同研究支援事業

主として以下の学術・交流の重点分野・テーマに係る支援を部局との協働で行っているが、この分野は今後見直していく必要がある。

#### 香川大学として国際的な学術・交流の重点分野・テーマ

1. 「チーム香川、希少糖、遠隔医療シーズを基盤とした、アジア諸国における糖尿病・肥満を中心とした生活習慣病の予防・改善、健康社会確立のための包括的研究」  
(主担当部局：医学部)
2. 「人間支援・バイオメディカル分野における先端的メカトロニクス研究の国際展開」  
(主担当部局：工学部)
3. 「アジア諸国等における食品の安全に関する標準化研究、並びに地域農水産品のグローバル展開に向けた食品加工技術の開発・普及」  
(主担当部局：農学部)
4. 「讃岐からの発信－持続的発展に寄与する水文化・環境構築を目指す国際共同研究」  
(主担当部局：教育学部)
5. 「東南アジア産の植物の生物活性物質を利用する医薬・農薬の研究開発と早生樹のバイオマス利用」  
(主担当部局：農学部)

### 2. 外部資金獲得支援事業

JICA、JST、JSPSなどの機関との連携を行い、補助事業への申請、研修事業の獲得などを行っている。JICA草の根支援事業、JSTさくらサイエンスプランなどの採択につながっている。今後も外部資金獲得を目指し、学内外の研究者、グループとの連携を強めて行く。

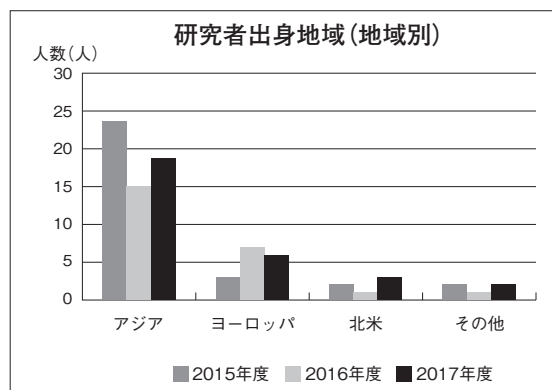


### 3. 外国人研究者等の受け入れ状況

海外からの外国人研究者の受け入れ状況である。平成29年度は30名の受け入れを行った。

地域としては、アジアが最も多く2/3を占めた。

国別には13ヶ国から受け入れ、中華人民共和国からが多かった。



	アジア	ヨーロッパ	北米	その他	合計
2015年度	24	3	2	2	31
2016年度	15	7	1	1	24
2017年度	19	6	3	2	30

#### 【国別】

国名	2015年度	2016年度	2017年度
インド	1	1	0
インドネシア	2	2	0
韓国	0	1	1
タイ	4	2	1
中国	7	3	11
台湾	2	2	3
ネパール	0	0	2
バングラデシュ	2	1	0
フィリピン	0	0	0
ベトナム	2	3	0
マレーシア	0	0	0
スリランカ	1	0	0
モンゴル	2	0	1

国名	2015年度	2016年度	2017年度
イギリス	0	3	0
イタリア	1	0	0
スウェーデン	0	1	1
スペイン	0	0	1
フランス	1	0	0
ベルギー	1	3	1
ロシア	0	0	3

国名	2015年度	2016年度	2017年度
アメリカ	2	1	3

国名	2015年度	2016年度	2017年度
エジプト	2	0	0

国名	2015年度	2016年度	2017年度
トルコ	0	1	1

国名	2015年度	2016年度	2017年度
ペルー	0	0	1

国名	2015年度	2016年度	2017年度
ニュージーランド	1	0	0

#### 4. 学術交流協定大学との交流状況

香川大学の目指す「4 & 1 プラン」は、年間400名以上の留学生を受け入れ、年間100名以上の日本人学生を3カ月（1クォーター）以上派遣するプランである。インターナショナルオフィスはこのプランの達成に向けて、各部局の国際交流の活性化を支援するとともに、インターナショナルオフィス独自のプログラムを実施している。

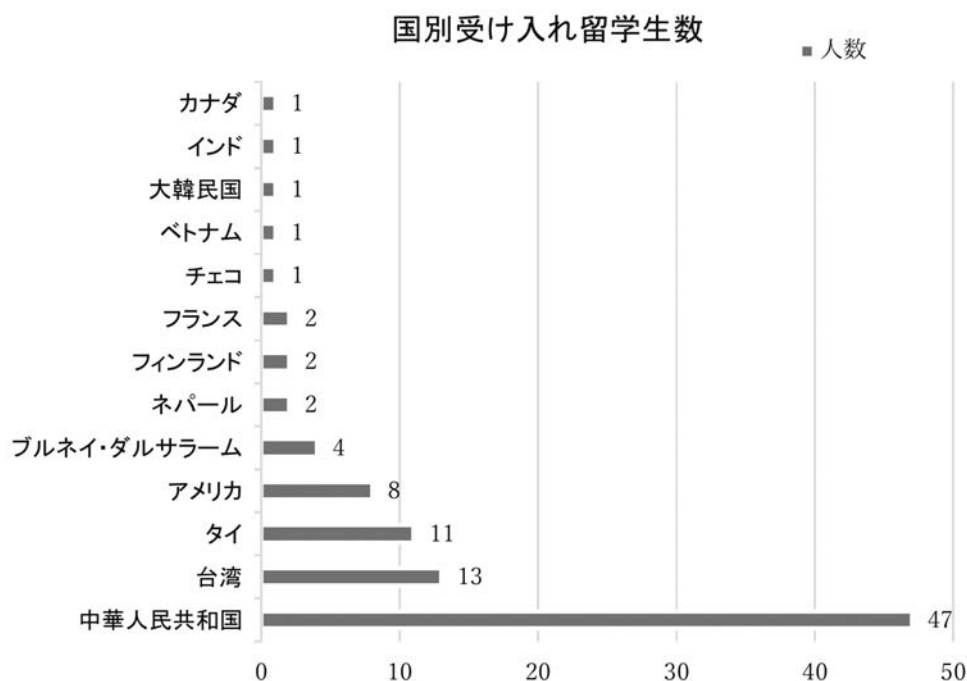
留学生の受け入れおよび日本人学生の派遣のどちらにおいてもその中心となるのは、協定校との交流によるものである。平成29年5月現在で、香川大学では17ヶ国55大学との大学間協定を締結している。また14ヶ国27大学・機関との間で学部間協定を締結している。その中で、留学生の受け入れや日本人学生の派遣を実施している大学は、46大学である。

##### (1) 協定校からの受け入れ留学生数

以下に協定校とその受け入れ留学生数を示す。

学術交流協定締結校	人数	学術交流協定締結校	人数
ハルビン工程大学	12	国立中正大学地球環境科学部	2
チェンマイ大学	8	カセサート大学	1
国立嘉義大学	7	南京農業大学	1
西北大学	6	上海大学	1
北京理工大学生命学院	6	南ポヘミア大学	1
天津理工大学	5	ブルネイ・ダルサラーム大学	1
コロラド州立大学	4	チュラロンコン大学	1
電子科技大学	4	浙江工商大学	1
長春理工大学	4	ハノイ工科大学	1
台湾中央気象局	4	アサンプション大学	1
河北医科大学	4	聖公会大学校	1
ブルネイ・ダルサラーム国保健省	3	インド工科大学グワハチ校	1
ルイビル大学	2	カルガリー大学医学部	1
トリブバン大学	2	北京師範大学化学学院	1
エッカード大学	2	アルビ鉱山大学	1
ラップランド応用科学大学	2	ブルゴーニュ大学アグロスツップ校	1
宝鷄文理学院化学化工学院	2	計	94

また、国別の受け入れ留学生数は以下のとおりであった。



このように94名の留学生のうち、中華人民共和国からの留学生が47名（50%）であり、それに次いで台湾13名（14%）、タイ11名（12%）、アメリカ8名（9%）、ブルネイ・ダルサラーム4名（4%）他となっていた。やはりアジア・ASEAN地域からの受け入れが多く、全体の85%（80名）を占めた。香川大学としては国際交流の重点地域をアジア・ASEAN地域としており、その点を反映した状況となっているとも言える。

## (2) 協定校への派遣学生数

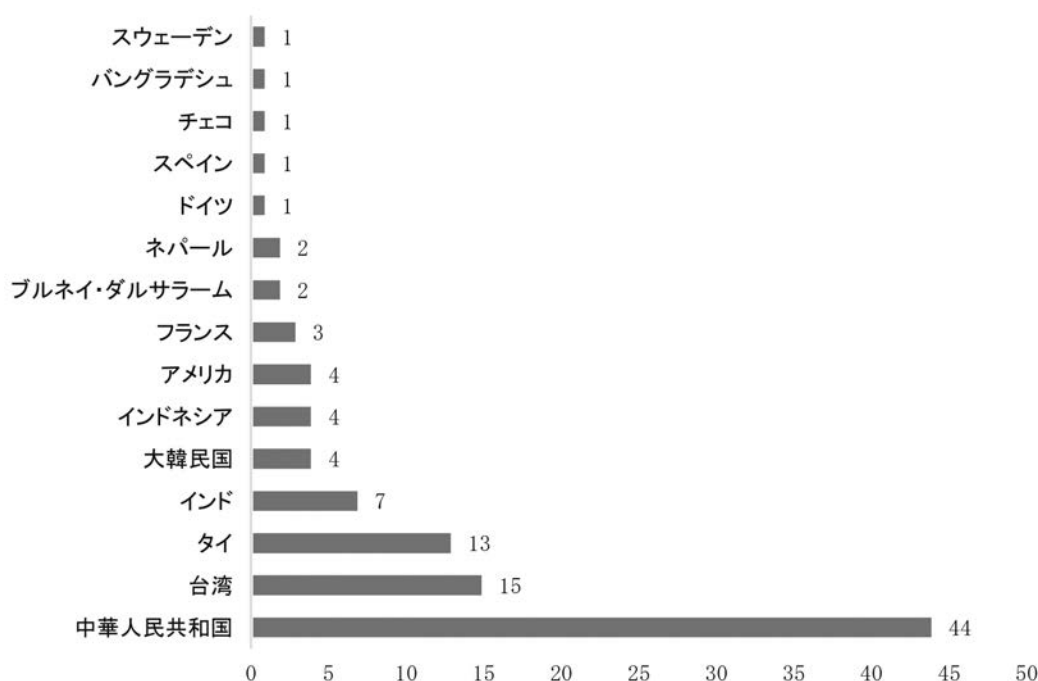
以下に協定校へ派遣した学生数を示す。

学術交流協定締結校	人数	学術交流協定締結校	人数
チェンマイ大学	14	トリプバン大学	2
カセサート大学	5	長春理工大学	2
真理大学	5	ガウハチ大学地理学科	2
上海大学	4	インド工科大学グワハチ校	2
天津理工大学	4	宝鶏文理学院化学化工学院	2
北京理工大学生命学院	4	国立中正大学地球環境科学部	2
ハルビン工程大学	3	南京農業大学	1
西北大学	3	ミュンヘン工科大学	1
チュラロンコン大学	3	国立政治大学	1
国立嘉義大学	3	カディス大学	1
アサンプション大学	3	南ボヘミア大学	1
聖公会大学校	3	ハンバット大学	1
台湾中央気象局	3	シェレバングラ農科大学	1

河北医科大学	3	セントピーターズバーグ大学	1
ノースイースタンヒル大学	3	浙江工商大学	1
アルビ鉱山大学	3	カリフォルニア州立大学フラトン校	1
ボゴール農業大学	3	ディポネゴロ大学	1
メチョー大学	2	ハルムスタッド大学	1
コロラド州立大学	2	中国文化大学	1
電子科技大学	2	江西師範大学・国際教育学院	1
ブルネイ・ダルサラーム大学	2	計	103

また、派遣先の国別割合は以下のとおりであった。

国別派遣学生数



このように103名の派遣学生の派遣先は留学生の44名（43%）が中華人民共和国であり、それに次いで台湾15名（14%）、タイ13名（12%）、インド7名（7%）他となっていた。派遣においても、やはりアジア・ASEAN地域が多く、全体でも92名（89%）を占めた。重点地域をアジア・ASEAN地域としていることを反映している状況である。

なお、この数字は、協定校に派遣した学生の数である。実際には、協定校以外への派遣、短期交流学生や、JICAやJSTなどの派遣事業を活発に行っており、海外に派遣した学生の総数は241名で、そのうち、3ヵ月以上にわたり派遣した学生数は43名であった。

今後は有力な大学・機関で学生の相互交流ができる新たな協定校を増やすとともに、現在の協定校の活動状況を見直して活性化を図っていく。



### Ⅲ 留学生センターに関わる報告

#### 【留学生の受入】

##### 1. 留学生センター日本語教育カリキュラム等

インターナショナルオフィス 塩井実香

###### (1) さぬきプログラム生対象日本語研修コース（初級）

平成29年度開講の日本語研修コースは、前・後期ともにさぬきプログラム生（注：P39参照）を主な対象として実施した。留学生センターで国費予備教育生の受け入れがある場合には同学生も対象とするのだが、この年度は前・後期とも受け入れがなかったためである。

###### ① 前期

実施期間：平成29年4月11日（火）～7月25日（火）

参加人数：18名（いずれもさぬきプログラム学生）

実施概要： 学生18名は日本語初心者のためレベルは初級とし、『みんなの日本語 初級Ⅰ』を用いて全25課のうち22課まで学習した。

担当教員は専任教員3名、非常勤講師1名で、授業は基本的に月～金に毎日2コマずつとし、前期は学期途中（6月）より週1コマ、専任教員による補講も行った。

専任教員の担当コマのうち週6コマは全学共通科目として単位制で、残り2コマおよび非常勤講師担当の2コマは留学生センター開講科目として単位付与無しで実施されたが、授業自体は別項「さぬきプログラム」に記載のとおり、全てひと続きのものとして実施された。

曜日 時限	月	火	水	木	金
1					初級日本語 （高水）
2	※初級日本語 I a（塩井）	※初級日本語 I c（塩井）	初級日本語 （和田（非））	※初級日本語 I b（高水）	初級日本語 （高水）
3	※初級日本語 I a（塩井）	※初級日本語 I c（塩井）	初級日本語 （和田（非））	※初級日本語 I b（高水）	
4			補講（植村）		補講（植村）

（※：全学共通科目、非：非常勤講師）

###### ② 後期

実施期間：平成29年10月4日（水）～平成30年2月13日（火）

参加人数：6名（いずれもさぬきプログラム学生）

※途中2か月間、JICAプログラムの日系人研修員2人がスポット的に参加

実施概要： さぬきプログラム学生で、渡日前にある程度の日本語学習経験を有する初中級レベルの学生も1名いたが、本人の希望もあり、復習の意味でもかなや挨拶等初歩の内容から共に学習させた。

使用教材は『みんなの日本語 初級Ⅰ』『同Ⅱ』で、後期は1冊目（全25課）を終

え、2冊目（第26～50課）の第28課まで学習することができた。

担当教員は専任教員2名、非常勤講師1名で、後期は補講を無しとし、月～金に毎日2コマずつ組まれた。前期同様、専任教員の担当コマのうち週6コマは全学共通科目として単位制で、残り2コマおよび非常勤講師担当の2コマは留学生センター開講科目として単位付与無しで実施された。

曜日 時限	月	火	水	木	金
1					※初級日本語 Ⅱc（高水）
2	※初級日本語 Ⅰa（塩井）	初級日本語 （塩井）	初級日本語 （和田（非））	※初級日本語 Ⅱb（高水）	※初級日本語 Ⅱc（高水）
3	※初級日本語 Ⅰa（塩井）	初級日本語 （塩井）	初級日本語 （和田（非））	※初級日本語 Ⅱb（高水）	

（※：全学共通科目、非：非常勤講師）

## (2) 日本語講座

このカテゴリーの授業は、主として中級レベルの学生、すなわち、中上級以上を対象とした全学共通科目（下記(5)）も初級対象の日本語授業（上記(1)）もレベル的に合わない学生を対象に、自分の都合のよい時間に、内容およびレベルを選択して受講することができるようにと、週2コマ留学生センターで開講しているもので、単位の付与はない。さぬきプログラム開始以降は非常勤講師の担当コマとなっている。

### ① 前期

実施期間：平成29年4月11日（火）～7月25日（火）

参加人数：火曜3コマ 10名、火曜4コマ 6名

曜日 時限	火
2	中級日本語（秋田（非））
3	中級日本語（秋田（非））

実施概要： 授業名はいずれも「中級日本語」であるが内容は異なり、3コマ目は場面に応じた会話練習が主、4コマ目はDVD視聴や読み物の読解を通して自分の意見をまとめて表明できるようにすることが主であった。単位を目的としない研究生や院生、インターシップのため留学した特別聴講学生などの参加が多かった。

### ② 後期

実施期間：平成29年10月3日（火）～平成30年2月3日（火）

参加人数：火曜3コマ 6名、火曜4コマ 4名

曜日 時限	火
2	中級日本語（秋田（非））
3	中級日本語（秋田（非））

実施概要： 3コマ目は与えられたテーマに沿ってディスカッションをしたり場面に応じた話し方を学んだりし、4コマ目は映画視聴を通して語彙を増やしたり意見を述べたりすることが主であった。後期も引き続き単位を目的としない研究生や院生、インターンシップのため留学した特別聴講学生などの参加が多く、他キャンパスからの院生の受講も目立った。

### (3) 医学部における日本語サロン

実施期間：前期 平成29年4月19日（水）～7月12日（水）  
後期 平成29年10月4日（水）～平成30年3月28日（水）  
いずれも、毎週水曜日14：00～15：30

参加人数：前期 1回あたり2～4人  
後期 1回あたり2～7人

実施概要： 医学部の留学生のため、地元香川で日本語学習支援・生活支援を行っているボランティア団体である「わ」の会において、医学部キャンパスにてサロンを開催していただいている。対象は入門または初級の学生であり、毎回、同会で日本語学習支援経験のある1～2名のボランティアスタッフが来学して基本的な会話の練習をしてくださっている。

だが、医学部留学生は実験や研究の忙しい院生が多いため本サロンへの継続的な参加が難しく、一方で、キャンパスが近く、渡日前に日本語学習経験のある農学研究科の院生が近年比較的多く参加しているのが現状で、本サロンの趣旨をふまえ今後のあり方について再検討する余地がある。

### (4) 「日本の食の安全」特別コースの日本語関連科目

これらの科目はアジア人財資金構想（高度専門留學生育成事業）の科目を引き継いで以降、「アジア人財日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「ビジネス日本語Ⅰ、Ⅱ」「ビジネス教育Ⅰ」で構成されていた。しかし、対象学生（日本企業・日系企業への就職を目指す修士課程の院生）の日本語力を引き上げ、本学修了時にN2程度という修了要件を満たすという必要性、および学生からの要望により、「食の安全学生向け補講」として科目数を増加させた。

下記時間割表のうち、「ビジネス日本語Ⅰ、Ⅱ」「ビジネス教育Ⅰ、Ⅱ」は上記を継承した必修科目（単位あり）で、それ以外の科目が上記「アジア人財日本語」を引き継ぎ拡充させた非単位の科目である。

#### ① 前期

実施期間：平成29年4月10日（月）～8月22日（火）

参加人数：「日本語基礎Ⅱ」5名（いずれも同コース1年生）

「日本語基礎（中級、速習）」6名（同コース1年生5名＋コース外学生1名）

「日本語基礎（中上級）」8名（同コース2年生）

「ビジネス日本語Ⅰ」6名（同コース1年生）

曜日 時限	月	火	水
3	日本語基礎（中級、速習）（黒川（非））@幸町		日本語基礎（中上級）（高水）@農学部
4	日本語基礎（中級、速習）（黒川（非））@幸町	日本語基礎Ⅱ（青木（非））@農学部	日本語基礎（中上級）（高水）@農学部
5		●ビジネス日本語Ⅰ（青木（非））@農学部	

（●：必修授業・単位あり）

実施概要：本コースは10月入学9月修了のため、いわゆる前期は、コース学生にとっては1年次後半および2年次後半に当たる。前年度10月入学の1年生は「日本語基礎Ⅱ」「日本語基礎（中級、速習）」「ビジネス日本語Ⅰ」を受講した。修了を控えた2年生は、この学期の受講はなかった。

「日本語基礎Ⅱ」「日本語基礎（中級、速習）」は、いわゆる日本語の授業であり、「ビジネス日本語Ⅰ」はビジネス用語、面接時のマナー、履歴書の書き方等、就職に役立つ日本語を扱った。いずれの授業も、コース外学生でも希望者は受講可能としており、今期は上記のとおり「日本語基礎（中級、速習）」にコース外学生が参加していた。

## ② 後期

実施期間：平成29年10月16日（月）～平成30年3月6日（火）

参加人数：「日本語基礎Ⅰ」5名（同コース1年生4名+コース外学生1名）

「日本語基礎（初中級）」9名（同コース1年生5名+コース外学生4名）

「日本語基礎Ⅲ」5名（同コース2年生）

「ビジネス日本語Ⅱ」および「ビジネス教育Ⅰ」各5名（同コース2年生）

曜日 時限	月	火	水
2	日本語基礎Ⅲ（黒川（非））@幸町		
3	日本語基礎Ⅲ（黒川（非））@幸町	●ビジネス日本語Ⅱ（宝山（非））@農学部	
4		日本語基礎Ⅰ（青木（非））@農学部 ●ビジネス教育Ⅰ（宝山（非））@農学部	日本語基礎Ⅲ（高水）@農学部
5		日本語基礎Ⅰ（青木（非））@農学部	日本語基礎Ⅲ（高水）@農学部

（●：必修授業・単位あり）

実施概要：「日本語基礎Ⅰ」および「日本語基礎（初中級）」は、入学したばかりの1年生のうち初級～初中級の学生を対象としたものであり、「日本語基礎Ⅲ」は2年生のうち希望者、必修科目の「ビジネス日本語Ⅱ」「ビジネス教育Ⅰ」は2年生全員を対象としている。ビジネス関係の2科目では、いわゆるビジネス日本語にとどまらず、ビジネスマナーや日本の企業文化、入社試験で日本人なら当然問われるであろう一般常識等も扱われた。この学期も、ビジネス関係科目以外はコース外学生が数名参加していた。

(5) 全学共通科目の日本語・日本事情（大学教育基盤センター提供、単位あり）

実施期間：前期 平成29年4月～8月、後期 平成29年10月～平成30年2月

参加人数：日本語Ⅰc 5名、日本語Ⅱc 13名、日本事情Ⅰb 2名、日本事情Ⅱa 10名

（以上、留学生センター教員担当科目）

留学生センター教員担当科目（後期のみ）

曜日 時限	火	水	木
2	日本語Ⅰc（高水）	日本事情Ⅰb（植村）	日本語Ⅱc（塩井）
3			日本事情Ⅱa（ロン）

実施概要： 全学共通の「日本語・日本事情」科目は、教育学部教員、留学生センター教員、および大学教育基盤センター非常勤講師によって行われる単位制の授業であり、編成および実施の一部を大学教育基盤センターのコーディネーターとして留学生センター教員が担当している。

これに関連し、全学教育で使用されるLL教室の教材選定等も留学生センター教員が担っている。

授業は、「日本語Ⅰ～Ⅲ」が非正規生向けの中級授業、「日本語Ⅳ～Ⅵ」「日本事情」が学部生向け（卒業要件として単位認定）の上級授業である。このうち後期の「日本語Ⅰc」「日本語Ⅱc」「日本事情Ⅰb」「日本事情Ⅱa」を留学生センター教員が担当した。

「Ⅰc」は作文を主とした書く技術の向上を目指した授業、「Ⅱc」は4技能を伸ばすための授業である。「日本事情Ⅰ」では日本の歴史、年中行事、環境、ポップカルチャー、スポーツなどの幅広いトピックをディスカッションやプレゼンテーションなどのタスクを通して学ぶ。「日本事情Ⅱc」では、新聞記事等を参考に情報収集をしグループ発表をする形態がとられた。

(6) 農学研究科AAP コースの日本語・日本事情

実施期間：前期 平成29年4月～8月、後期 平成29年10月～平成30年2月

前期

曜日 時限	火	水
2	●サバイバル日本語（早川（非））	●科学技術日本語（早川（非））

後期

曜日 時限	火	水
2	●日本事情・地域交流（早川（非））	●新入生セミナー（早川（非））

実施概要： 農学研究科における英語によるコース（修士課程）の中で、必修化されている日本語および日本事情に関する科目であり、授業はインターナショナルオフィス留学生センターが直接提供しているわけではないが、カリキュラム、非常勤講師の調整、運営等を留学生センターまたはその教員が主導している。愛媛・高知・香川の3大学による連合大学院の授業であるため、本コース開始前に授業名や授業内容等を3大学の関係者で協議し共通化するところから留学生センター教員が担ってきた。

AAPコースも10月入学9月修了であるため、後期に新入生向けの授業が組まれている。コース学生はいずれも日本語初心者であるため、授業はいずれも英語で行われる。

参考資料1 平成29年度 前期 日本語関連授業一覧 / 2017 Spring Semester Japanese Language Classes

曜日	幸町キャンパス Saiwai-cho Campus	農学部キャンパス Faculty of Agriculture	医学部キャンパス Faculty of Medicine	工学部キャンパス Faculty of Engineering			
月 Mon	1						
	2	※★初級日本語 I a Elementary Japanese Ia	塩井 Shioi				
	3	※★初級日本語 I a Elementary Japanese Ia	塩井 Shioi				
		日本語基礎 (中級、速習) Upper Elementary Japanese	黒川 Kurokawa				
	4	※日本語Ia (中級) Japanese Ia (Intermediate)	山下 (直) Yamashita, N.				
火 Tue	1						
	2	※★初級日本語Ic Elementary Japanese Ic	塩井 Shioi	サバイバル日本語(初級) Survival Japanese (Elementary)	早川 Hayakawa		
	3	中級日本語 Intermediate Japanese	秋田 Akita				
		※★初級日本語Ic Elementary Japanese Ic	塩井 Shioi				
	4			日本語基礎II Basic Japanese II (Intermediate)	青木 Aoki	☆初中級1 Upper Elementary 1	児島 Kojima
5			ビジネス日本語I Business Japanese I (Upper Intermediate)	青木 Aoki	☆初中級2 Upper Elementary 2	児島 Kojima	
水 Wed	1						
	2	★初級日本語 Elementary Japanese	和田 Wada	科学技術日本語 Japanese for Science and Technology	早川 Hayakawa		
	3	★初級日本語 Elementary Japanese	和田 Wada	日本語基礎(中上級) Basic Japanese (Upper Intermediate) 14:00-15:30	高水 Takamizu	○日本語サロン(初級) Lang. Salon Class (Elementary) 14:00-15:30	「わ」の会
	4			日本語基礎(中上級) Basic Japanese (Upper Intermediate) 15:40-17:10	高水 Takamizu		
	5						
木 Thu	1						
	2	※★初級日本語 I b Elementary Japanese I b	高水 Takamizu				
	3	※日本語 Vb (上級) Japanese Vb (Advanced)	佐藤 Sato				
		※★初級日本語 I b Elementary Japanese I b	高水 Takamizu				
	4	※日本語 Ib (中級) Japanese Ib (Intermediate)	山下 (明) Yamashita, T.				
金 Fri	1	★初級日本語 Elementary Japanese	高水 Takamizu				
	2	★初級日本語 Elementary Japanese	高水 Takamizu				
	3	※日本語Va (上級) Japanese Va (Advanced)	早川 Hayakawa				
		※日本語 Ia Japanese Affairs Ia	早川 Hayakawa				
	4	★(特) Globalization in the higher education sector: trends, issues, and strategies	ロン Lrong				
5							

参考資料2 平成29年度 後期 日本語関連授業一覧 / 2017 Fall Semester Japanese Language Classes

曜日	幸町キャンパス Saiwai-cho Campus	農学部キャンパス Faculty of Agriculture	医学部キャンパス Faculty of Medicine	工学部キャンパス Faculty of Engineering
月 Mon	1			
	2	※★初級日本語 I a Elementary Japanese Ia 塩井 Shioi		
	3	日本語基礎 (初中級) (Upper Elementary) 黒川 Kurokawa		
	4	※★初級日本語 I a Elementary Japanese Ia 塩井 Shioi		☆初中級 1 Upper Elementary 1 児島 Kojima
	5	※★初級日本語 I a Elementary Japanese Ia 塩井 Shioi		
火 Tue	1			
	2	★初級日本語 Elementary Japanese 塩井 Shioi	日本事情・地域交流 Studies on Japanese Culture/Community Exchange (Elementary) 早川 Hayakawa	
	3	※日本語 I c (中級) Japanese Ic (Intermediate) 高水 Takamizu		
	4	★初級日本語 Elementary Japanese 塩井 Shioi	ビジネス教育 I Japanese business manner and culture I (Upper Intermediate) 宝山 Hozan	
	5	中上級日本語 Upper Intermediate Japanese 秋田 Akita	日本語基礎 I Basic Japanese I (Upper Elementary) 15:00 - 16:30 青木 Aoki	
水 Wed	1			
	2	★初級日本語 Elementary Japanese 和田 Wada	新入生セミナー (初級日本語) 1st year student seminar (Elementary Japanese) 早川 Hayakawa	
	3	※日本語 II a (中級) Japanese Ia (Intermediate) 佐藤 Sato		
	4	※日本語 II b (中級) Japanese Ib (Intermediate) 植村 Uemura		
	5	★初級日本語 Elementary Japanese 和田 Wada		○日本語サロン (初級) Lang. Salon Class (Elementary) 14:00 - 15:30 「わ」の会
木 Thu	1	※日本語 IV b (中上級) Japanese IVb (Upper Intermediate) 佐藤 Sato		
	2	※★初級日本語 I b Elementary Japanese I b 高水 Takamizu		
	3	※日本語 II c (中級) Japanese II c (Intermediate) 塩井 Shioi		
	4	※日本語 VI b (上級) Japanese VIb (Advanced) 山下 (直) Yamashita, N.		
	5	※★初級日本語 I b Elementary Japanese Ib 高水 Takamizu		
金 Fri	1	※★初級日本語 I c Elementary Japanese 高水 Takamizu		
	2	※★初級日本語 I c Elementary Japanese 高水 Takamizu		
	3	※日本語 VI a (上級) Japanese VIa (Advanced) 早川 Hayakawa		
	4	※日本語 II b (中級) Japanese II b (Intermediate) 早川 Hayakawa		
	5			

参考資料3 留学生センター所属国費留学生

期 間	国 籍	人 数	予備教育後の所属
2003年10月～2004年3月	コ ス タ リ カ	1	教育学部（教員研修）
2004年4月～2004年9月	ドミニカ共和国	1	経済学 研究科
	ベ ト ナ ム	1	経済学 研究科
2004年10月～2005年3月		0	
2005年4月～2005年9月	アルゼンチン	1	医学系 研究科
	エ ジ プ ト	1	医学系 研究科
	パプアニューギニア	1	医学系 研究科
2005年10月～2006年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
2006年4月～2006年9月		0	
2006年10月～2007年3月		0	
2007年4月～2007年9月		0	
2007年10月～2008年3月		0	
2008年4月～2008年9月		0	
2008年10月～2009年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
2009年4月～2009年9月	ジ ン バ ブ エ	1	農 学 研 究 科
2009年10月～2010年3月	ペ ル ー	1	教育学部（教員研修）
2010年4月～2010年9月		0	
2010年10月～2011年3月	カ ン ボ ジ ア	1	教育学部（教員研修）
	ホ ン ジ ュ ラ ス	1	教育学部（教員研修）
2011年4月～2011年9月		0	
2011年10月～2012年3月	イ ン ド ネ シ ア	1	教育学部（教員研修）
	マ レ ー シ ア	1	教育学部（教員研修）
2012年4月～2012年9月	ロ シ ア	1	経済学 研究科
2012年10月～2013年3月		0	
2013年4月～2013年9月		0	
2013年10月～2014年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
	ラ オ ス	1	教育学部（教員研修）
2014年4月～2014年9月		0	
2014年10月～2015年3月	イ ン ド ネ シ ア	1	教育学部（教員研修）
	コ ス タ リ カ	1	教育学部（教員研修）
2015年4月～2015年9月	バ ン グ ラ デ シ ュ	2	農 学 研 究 科
2015年10月～2015年3月		0	
2015年10月～2016年9月	メ キ シ コ	1	
	ミ ャ ン マ ー	1	
2016年4月～2016年9月	セ ネ ガ ル	1	工学部（研究生）
2016年10月～2017年3月		0	
2017年4月～2017年9月		0	
2017年10月～2018年8月	タ イ	1	



## 2. さぬきプログラム

インターナショナルオフィス 高水 徹・塩井 実香

さぬきプログラムは、インターナショナルオフィスによる半年間の受入れプログラムで、主な対象は交流協定校からの特別聴講学生である。主な学習内容は日本語・日本文化であり、開始時の日本語能力に応じて、能力を向上させることができる。

### (1) 「さぬきプログラム」開始の経緯

本プログラムは、学术交流協定校に所属する学生で、日本語初心者であっても本学留学に関心がある学生がいれば特別聴講学生として受入れたいというところから出発した。受入れの主体はインターナショナルオフィスで、本学全体として留学生受入れ増を目指す中で、平成26年に開始した、留学生受入れプログラムである。

平成17年以降、留学生センター（インターナショナルオフィス設置前）では2～4週間の短期日本語語学研修プログラムを実施していた。この短期プログラムは、平成26年夏季実施の第20回を以て発展的に解消し、その経験や実績をふまえて期間を半年（1学期間）に拡大し、プログラム名に「さぬき」を冠して同年10月より特別聴講学生の受入れを可能とした。

従来、特別聴講学生は、日本人学生や本学所属の他の留学生（正規生、特別聴講学生、科目等履修生ら）と共に既存の授業を受講することが前提となっており、基本的に授業を理解するための、一定程度以上の日本語能力が必要とされていた。そのため、日本あるいは本学に関心があっても日本語能力が壁となって留学が叶わなかった学生もいた。そのような学生に門戸を広げ、日本語の基礎や日本の文化・社会等について学んでもらうことで、主に協定大学との学生交流を活性化すると同時に、将来的に正規生（学部生、大学院生）として再び本学に留学してきてくれることが理想である。

平成26年度後期にさぬきプログラム1期生を受け入れ、以後、毎学期数人ずつを受け入れてきている。

#### 第1期から第5期までの受け入れ人数

1期生（H26後期）	5（うち国費4）
2期生（H27前期）	8（うち国費4）
3期生（H27後期）	5（うち国費2）
4期生（H28前期）	6（うち国費3）
5期生（H28後期）	1

以下は、29年度に受け入れた6期生（前期）および7期生（後期）についての報告である。

### (2) プログラム内容

本プログラムは、日本語・日本事情科目とそれ以外の科目から構成される。

「日本語」は、本プログラムとしては初級レベルのものを毎日2コマずつ開講する。この日本語授業は、大学教育基盤センター下で全学共通科目の一環として開講する単位付与の授業（表で「※」がついているもの）と、留学生センター開講科目として開講する単位なしの授業とに分かれるが、実際には両者の授業が連続したひと続きのものとして行われる。

なお、H29前期に関しては、植村教員による初級学習者対象の漢字を扱う授業も実施された。

#### H29年度前期時間割

曜日 時限	月	火	水	木	金
1					初級日本語 (高水)
2	※初級日本語 I a (塩井)	※初級日本語Ic (塩井)	初級日本語 (和田)	※初級日本語 I b (高水)	初級日本語 (高水)
3	※初級日本語 I a (塩井)	※初級日本語Ic (塩井)	初級日本語 (和田)	※初級日本語 I b (高水)	※日本事情 Ia (早川) ----- Globalization in the higher education sector (ロン)
4	※初級日本事情 b (野田)	Japanese Songs (ロン、町原)	初級日本語 (植村)	※初級日本事情a (杉尾)	初級日本語 (植村)
5	※プロジェクトさぬき (ロン、高水 他)	Sanuki Program Magazine (ロン、町原、 Anderson)		Japanese Cuisine (Anderson)	

#### H29年度後期時間割

曜日 時限	月	火	水	木	金
1					※初級日本語 I c (高水)
2	※初級日本語 I a (塩井)	初級日本語Ic (塩井)	初級日本語 (和田) ----- ※日本事情 I b (植村)	※初級日本語 I b (高水)	※初級日本語 I c (高水)
3	※初級日本語 I a (塩井)	初級日本語Ic (塩井)	初級日本語 (和田)	※初級日本語 I b (高水) ----- ※日本事情 II a (ロン)	※日本事情 Ia (早川) ----- Globalization in the higher education sector (ロン)
4	※初級日本事情 b (野田)		Japanese Songs (ロン、町原)	※初級日本事情a (植村)	Japanese Cuisine (Anderson)
5	※プロジェクトさぬき (ロン、高水 他)			Japanese Cuisine (Anderson)	

日本語能力が中級以上の学生が本プログラムに参加する場合は、既存の日本語授業、すなわち、全学共通科目や留学生センター開講の該当するレベルの授業に参加させることとし、本プログラムとしての特別の授業は開講しない。

#### H29年度前期中級以上日本語

曜日 時限	月	火	木	金
2		中級日本語 (秋田)	※日本語 V b (佐藤)	※日本語 V a (早川)
3	日本語基礎 (黒川) ※日本語 I a (山下直) ※日本語 III a (轟木)	中級日本語 (秋田)	※日本語 I b (山下明) ※日本語 III b (佐藤)	※日本事情 Ia (早川)
4	日本語基礎 (黒川)			

## H29年度後期中級以上日本語

曜日 時限	月	火	水	木	金
2	日本語基礎（黒川）	日本語 I c（高水）	※日本語 II b（佐藤）	※日本語 II c（塩井）	※日本語 VI a（早川）
3	日本語基礎（黒川） ※日本語 III a（轟木）	中上級日本語（秋田）	※日本語 VI b（佐藤）	※日本語 VI b（山下直）	※日本語 II b（早川）
4		中上級日本語（秋田）			



日本語以外としては、「初級日本事情」「プロジェクトさぬき」およびその他の科目がある。

「初級日本事情」は、日本の社会・文化・歴史等について全て英語で講義する授業で、大学教育基盤センター下で単位制の科目として週2コマ程度開講している。さぬきプログラム学生は、基本的に全員受講している。「日本事情」は、広く日本に関するトピックを扱う点は同様であるが、日本語により実施される点が異なっており、

少なくともN2程度以上の日本語能力が要求される。

「プロジェクトさぬき」も大学教育基盤センターの単位制の科目として開講し、その特徴は、日本人学生・留学生が共に履修し、香川に関する任意のテーマ等についてプロジェクト形式で調べて発表する、というものである。さぬきプログラム学生は全員必修である。日本人学生・留学生が数人ずつグループを形成し、メンバー構成によって日本語ないし英語でプロジェクトワークを行う。個人レポート（言語は日英いずれか）の提出や、プロジェクト終了後にはグループ内での相互評価も行われる。前期の最終課題は、プログラム開始前の学生の様子に基づき、動画の作成としたが、その後の学生からのフィードバックや教員からの意見により、後期の最終課題はパワーポイントによるプレゼンテーションとした。

29年度は新たな試みとして、「Japanese Songs」「Japanese Cuisine」も開講し、それぞれ活動を通して日本の文化を学んだ。前期には、「Sanuki Program Magazine」において、冊子の作成も試みた。

上記以外に、さらに学生が受講可能な科目としては、国際ナショナルオフィス教員が担当する経済学部開設科目（使用言語は英語）やその他の全学共通科目、学部開設科目などがあり、言語能力・興味・関心等に応じて受講することができる。これらの科目は、希望があり、受講要件を満たしている場合に、選択科目として履修することができる。

加えて、後期には、いくつかの特別講義を実施した。1つは希少糖に関する内容で、徳田雅明国際ナショナルオフィス長が担当した。四国危機管理教育・研究地域連携推進機構からは2回分の特別講義をご提供いただいた。1つは、金田義行地域強靱化研究センター長による、危機管理を広く扱ったものであり、もう1つは、井面仁志創造工学部教授による、災害状況再現・対応能力訓練システムの体験である。

(3) 第6期 (H29年度前期)

第6期生一覧

日本語	出身	身分	人数
初級	カンボジア	特別聴講学生	3
初級	インドネシア	特別聴講学生	2
初級	タイ	特別聴講学生	2
初級	台湾	特別聴講学生	3
初級	ブルネイ	特別聴講学生	4
中級	ドイツ	科目等履修生	1

この学期は、JASSOによる奨学金（交流支援制度）を急遽本プログラムで活用できるようになったため、6期生は19名で構成され、本プログラムとしては大所帯となった。

なお、6期生に関しては、便宜上「前期」受入れと記しているが、上記奨学金の支給条件として、29年3月までにプログラムを開始する必要があるため、新年度になる前の29年3月に学生が渡日しプログラムを開講、という例外的な形をとることとなった。そのため、3月には香川に関する知見を得るための見学や学習活動、発表などを実施し、4月からの授業開講に備えた。

(4) 第7期 (H29年度後期)

第7期生一覧

日本語	出身	身分	人数
初級	インドネシア	特別聴講学生	1
初級	タイ	特別聴講学生	2
中上級	タイ	国費留学生（日本語・日本文化）	1
初級	台湾	特別聴講学生	1
初中級	台湾	特別聴講学生	1
中級	台湾	特別聴講学生	1
初級	ブルネイ	特別聴講学生	1

7期生として、7名の特別聴講学生に加えて、タイからの日本語・日本文化研修留学生（国費）1名を受入れ、全体としては8名である。国費留学生も、特別聴講学生同様、さぬきプログラムの枠組みで学んでいるが、本学生は制度的には日本語・日本文化研修留学生であるため、1年間の留学となる。また、特別聴講学生のうち1名は、本プログラム修了後、農学部で特別聴講学生として留学を続けられるよう調整した。このように、本プログラム自体は半年間のプログラムであるが、当該学生が日本語能力を有し、受入れ部局が認めれば、留学を継続することが可能である。

「日本語」授業は、初級および初中級学生を一つのクラスとして「初級日本語」を開講し、中級学生については既存のレベルの合う授業に参加させた。日本語・日本文化研修留学生に関しても、後者同様の対応を行った。

なお、上で、「プロジェクトさぬき」が全員履修であり、「初級日本事情」もそれに準ずる扱いであることを述べたが、日本語能力を有する学生の一部が、英語能力等の不足により、一部「初級日本事情」科目の継続を断念した。

### 3. 各部署主催のJASSO「留学交流支援制度」助成による短期受入プログラムにおける日本語授業

インターナショナルオフィス 塩井実香

平成23年度より、JASSOによる助成を受け、短期で海外から学生を受け入れる「Short Stayプログラム（SSプログラム）」と、短期で本学学生が海外研修に行く「Short Visitプログラム（SVプログラム）」が全国的に実施されるようになり、本学でも毎年複数の受け入れおよび派遣のプログラムが担当部署主導で実施されている。

以下は、平成29年度に実施され授業協力を行った農学部における短期受入プログラムについての報告である。

「東南アジアなどの食品安全機能解析教育に関する大学間相互交流プログラム  
Educational Program for students from South East Asia and Pacific Rim on Food Safety and Nutraceutical Science at Faculty of Agriculture, Kagawa University」

実施期間：平成29年8月22日（火）～9月22日（木）

参加学生：13の国・地域からの計26名

#### (1) 実施概要

農学部では、「日本の食の安全」留学生特別プログラムという修士課程のコースがあることもあり、23年度より食品安全実践教育を目指すSSプログラムが、夏季休業中を利用して行われている。このプログラムには、将来的に本学修士課程に入学する学生が出てくるとも期待して、日本語・日本文化を学ぶ時間も組み込まれており、インターナショナルオフィスの日本語教員が日本語授業を担当している。

実際、この参加学生26名の中から本学農学研究科「日本の食の安全」特別コースに興味を持ち、後日の入試を経て30年度に1名入学することが決まった。正規留学生増を目指す本学にとって本プログラムの成果の一つと言えるだろう。

#### (2) 日本語授業の概要

授業実施日：8月23日（水）、30日（水）、9月4日（月）、14日（木）、15日（金）

（9月14日（木）のみ2コマ、その他は各1コマ）

29年度は、約1ヶ月間のプログラム中、5回（時間数では6コマ分）の日本語授業が行われた。マレーシア・台湾・カンボジア・中国・インドネシア・フィリピン・タイ・ベトナム・ブラジル・トルコ・アメリカ・イギリス・ブルネイの13の国・地域から計26名の学生が、文字・挨拶・簡単な会話といった日本語の基礎を学び、うち1回（時間数では2コマ分）の授業を使って、実際に学外へ出て学んだ日本語を使う買い物体験も行った。この体験後には、簡単な日本語を用いたレポート課題にも取り組んだ。

今回は初めての試みとして、最後の授業で日本語の歌を取り入れた。出身国に関わらずメロディーは知っていると思われる「幸せなら手をたたこう」の歌詞をすべてひらがなで提示し、「読む→歌詞の意味を理解する→実際に体を使いながら歌う」と段階を追って進めたところ、覚えたてのひらがな

が読め、日本語ではこういう歌なのかという発見もあって、皆で楽しく歌うことができた。日頃、音楽やスポーツは言葉や国境を超えると信じていることが、授業の一環として実感できたひと時でもあった。

授業（座学）および買い物体験の際には、例年同様、農学研究科在籍中の日本語学習歴のある留学生にサポーターとして協力を呼びかけ、毎回数名に参加してもらうことができた。教師1人で26人の日本語初心者に教えることはかなり大変では



あるが、在籍留学生の協力は、単に教師の負担軽減のためというより、むしろ、普段研究室等で身近に接する留学生が先輩として教えてくれることで、安心感や、「同じ外国人がこれだけできるなら、自分もできるようになるはず」という自信にもつながり、学生同士のネットワークも広がるので、いろいろな意味でありがたく、今後も続けたいと思っている。

### (3) 成績評価

25年度よりプログラム修了時に成績（正課で行われているような「S、A、B、C、X（秀、優、良、可、不可）」ではなく、「Pass、X（合、否）」の2種のみ）を出すこととなり、29年度も成績評価を行った。評価は、日頃の授業態度、学外での買い物実践に関する日本語レポート、全授業終了後のレポート課題などを総合的に考慮して行った。最終レポートは、「プログラム期間中誰と日本語でコミュニケーションをしたか」「それはうまくいったか」「うまくいかない時はどのような手段をとったか」という振り返り、および今後の参考に「日本語学習の感想や今後の日本語授業への提案等」を英語で書かせた。全員が日本語でのコミュニケーションや日本語学習に肯定的な意見を述べていたのは、日本で日本語のあふれる中で行われる本プログラムの充実度の表れかと思う。



## 【留学生支援】

### 1. 留学生対象各種進学説明会

インターナショナルオフィス 高水 徹

平成29年度に本学インターナショナルオフィスが参加した進学説明会

開催日	開催地	備考
平成29年 4月18日 (火)	岡山	
平成29年 6月 1日 (木)	岡山	
平成29年 6月10日 (土)	大阪	日本語学校の教員が対象
平成29年 7月 5日 (水)	高松	
平成29年 7月 6日 (木)	岡山	
平成29年 7月15日 (土)	大阪	JASSO主催「外国人学生のための進学説明会」
平成29年 7月20日 (木)	神戸	



JASSO主催の説明会で説明する山下教育学部教授（当時）

平成29年4月から7月にかけて、日本語学校の留学生や教員を対象とした説明会に計7回参加した。会場は高松、岡山、大阪、神戸である。これらの説明会には、JASSO主催のもの、民間の機関主催のもの、日本語学校主催のものが含まれる。近年は特に岡山での広報活動を重点的に行っているが、その理由は、毎年岡山の日本語学校から本学に進学する留学生が多く、地理的条件を考えれば、今後も多くの留学生の入学が見込めるからである。

実際に岡山の会場では、他の開催地と同様の説明を行い、一見類似した質問を受けた場合でも、他の会場よりも詳細な内容であり、より真剣かつ具体的に本学への進学を検討している様子が伝わってきた。一方で、岡山会場においては、生活環境に関する質問などはあまり出てこない。これは、本学との地理的な近さを考えれば、学生にとって質問の必要がないからであると考えられる。

今年度も、高松において説明会が実施された。穴吹ビジネスカレッジの学生が中心ではあるが、他の日本語学校等所属の学生も参加可能な説明会である。穴吹ビジネスカレッジは、本学から最も近い県内の日本語学校であり、以前から同校より本学へ多数の留学生が進学している。他の会場とは異なり、地理的なことや交通機関に関する質問ではなく、その分試験制度に質問が集中していた。一方で、専門分野や試験科目など条件が合わないという理由で、同校からの本学への進学を現状以上に増やすことは、必ずしも容易ではない。

国外においては、平成27年度まで、JASSO主催の日本留学フェアに参加してきたが、留学フェアの直接的な効果により、留学生が本学に進学等したケースは多いとは言えないため、平成28年度より参加を取りやめている。日本国内の日本語学校を経ず、本学に直接留学する場合は、学部レベルでは非常に数が少なく、大学院レベルではこのような一般的なフェアではなく、各部局のルートを通って行くことが圧倒的に多いからである。

一方で、本学との特別な関係を有する国・地域で、本学希望者の来訪が見込める場合等は、同種の

イベントに参加することも考えられる。29年度はブルネイにおけるHigher Education Expo 2018への参加を検討したが、日程等の都合により直接的な参加を見送り、資料参加とした。

## 2. 課外教育行事

インターナショナルオフィス 高水 徹

本行事は、留学生や日本人学生が、香川県の伝統文化等への理解を深めること、および、学生間の交流の場を提供することを目的としたものであり、平成29年度は、2回の外国人留学生課外教育行事を実施した。

### (1) 第1回

実施日：平成29年5月20日（土）

実施場所：東かがわ市

参加人数：36名

各施設の受入可能人数等により、2つのグループに分かれて実施した。

### 第1回課外教育行事日程表

時間	1班	2班
8:15	JR高松駅 駅前広場集合	
10:00	スワニー訪問 手袋会社見学	つばさキャビアセンター見学 キャビア養殖見学
11:15	マーレリッコ見学 ハマチえさやり、ハマチ解体ショー	讃州井筒屋敷見学 母屋見学、和三盆型抜き体験
12:15	食事（ワーサン亭） 1）持参する 2）ハマチカツカレー 3）鶏唐揚げ定食	食事（醬） 1）ブリかま塩焼定食 2）鶏唐揚げ定食
13:10	讃州井筒屋敷見学 母屋見学、和三盆型抜き体験	マーレリッコ見学 ハマチえさやり、ハマチ解体ショー
15:15	手袋資料館 見学	
18:00	JR高松駅 解散	

1班は、同市の主要産業の1つである手袋を生産している、株式会社スワニーを見学した。手袋の他、主に高齢者を対象としたバッグ、世界最小クラスの車いすについて、説明のみならず、実際に手に取り、または座って、高い機能性を確かめることができた。

2班は、つばさキャビアセンターを見学した。キャビア養殖という、恐らく日本人にもあまり知られていない分野について、詳しく知ることができた。また、実際にチョウザメに触れるという貴重な体験もできた。

その後は、班により順番は異なるが、共通の内容を実施した。マーレリッコでは、ハマチの餌やりを体験し、解体ショーを見学した後、大量の解体直後のハマチを刺し身でいただいた。讃州井筒屋敷では、本県の名産である和三盆の型抜き体験を行った。同時に母屋を見学し、歴史にも触れることができた。最後に両グループ合同で、手袋資料館を見学した。



(2) 第2回

実施日：平成29年11月11日（土）

実施場所：小豆島

参加人数：42名

第2回課外教育行事日程表

時間	1班	2班
8:10	JR高松駅 サポートフェリー乗り場集合	
9:00	フェリーにて小豆島に移動	
10:30	井上誠耕園見学 オリーブ収穫、工場見学等	なかぶ庵見学 そうめん工場見学、箸分け体験等
	オリーブ公園散策・昼食	
14:20	集合・写真撮影	
15:00	中山地区散策	
16:30	フェリーにて高松に移動	
17:30	解散	

第1回同様、各施設の受入可能人数等により、2つのグループに分かれて実施した。

1班は、有限会社 井上誠耕園を見学した。オリーブ収穫体験に加えて、同社が近年力を入れているカフェ併設のショップの見学および買い物、本学の卒業生（元留学生）を含む、同社の方々による同社及びその製品についての説明などを伺うことができた。オリーブ畑やその周辺では、ちょうど収穫祭が行われており、景色も楽しむことができた。



オリーブを摘む留学生

2班は、なかぶ庵において、そうめんの箸分けを体験した。これはなかなか貴重な体験で、箸分け以前の工程である、麺を伸ばす部分（例えば、いかにして麺が絡むことを防ぐか）も含め、理系の学生が興味を持ちそうな部分も多く含まれていた。乾燥していない、生のそうめんというのも貴重である。

その後は、オリーブ公園散策および昼食、千枚田で有名な中山地区散策を行った。参加学生は、散策しながら写真撮影を楽しんだ。



中山地区にて

### 3. 国際交流活動

インターナショナルオフィス ロン リム

平成29年度は47回の国際交流活動を実施し、合計1307名が参加した。

このうちの多くはインターナショナルオフィスが単独で企画及び実施をし、留学生や日本人学生、また、場合によって地域住民が参加したものである。その中で特に回数の多い活動は、「ランチプレゼンテーション」(26回)である。これは、留学生と日本人学生が、ほぼ毎週月曜日の昼休みの時間を利用して、自由なテーマに基づいて主として英語で発表する取組みである。他には「新入留学生ガイダンス」や留学生宿舎における「流しそうめん」、「学長主催留学生交歓会」などが挙げられる。

二つ目のタイプは、インターナショナルオフィスが国際交流団体と共催するイベントである。例えば、香川県留学生等国際交流連絡協議会との共催で、「ホームビジット」や「作文コンテスト」「就職支援セミナー」「企業見学会」「実務懇談会」を実施した。

三つ目のタイプの交流活動は、インターナショナルオフィス主催の行事ではないが、長年、留学生が日本人学生および地元の人々と交流しているもので、ここに記録として入れる。綾川国際交流会との協力で、毎年の夏に「世界食文化」を、秋には「紅葉狩り・うどん作り体験講習会」を実施している。また、高松東ライオンズクラブの協力で、7月に直島への日帰り旅行を実施した。

平成29年度 留学生と日本人学生の交流事業

	開催日時			事業名	留学生	日本人学生	合計	備考
1	4月5日	水	13:00～17:00	新入留学生ガイダンス&情報交換会				記録なし
2	4月17日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	7	15	22	
3	4月24日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	15	8	23	
4	5月8日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	17	14	31	
5	5月15日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	19	14	33	
6	5月20日	土	8:30～18:00	課外教育行事	35	3	42	教員4
7	5月22日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	18	7	25	
8	5月29日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	20	23	43	
9	6月5日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	18	10	28	
10	6月12日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	14	6	20	
11	6月19日	月	11:00～13:00	ランチプレゼンテーション会	17	10	27	
12	6月24日	土	11:00～13:00	花園寮流しそうめん	10	1	16	教職員4
13	6月26日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	12	14	26	
14	7月2日	土		ホームビジット第1期1日目	23		23	
15	7月3日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	15	13	28	
16	7月8日	土		ホームビジット第1期2日目	6		6	
17	7月8日	土	9:00～13:00	上之町流しそうめん	13	5	77	地域51, 教職員8
18	7月9日	日		直島日帰り旅行	70	30	100	
19	7月10日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	17	14	31	
20	7月22日	土	11:00～13:00	会館流しそうめん	28	4	80	地域40, 教職員8
21	7月23日	日		世界食文化(綾川町)	17		17	
22	7月26日	水	14:30～16:30	フェアウェル交歓会	60	20	123	地域35, 教職員8
23	8月4日	木	13:30～17:00	実務懇談会&交流会	13		96	企業等64, 教職員19
24	10月7日	金	13:00～17:00	新入留学生ガイダンス&情報交換会	43	69	143	地域20, 教職員10
25	10月16日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	5	13	18	

26	10月23日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	8	16	24	
27	10月30日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	9	12	21	
28	11月6日	月	10:15～14:45	就活準備セミナー	25		31	教職員6
29	11月11日	土	8:10～17:30	課外教育行事	44	3	51	教員4
30	11月13日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	8	12	20	
31	11月20日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	10	9	19	
32	11月25日	土		紅葉狩り・うどん作り体験講習会	25		25	
33	11月27日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	12	9	21	
34	12月2日	金		ホームビジット第2期1日目	9		9	
35	12月4日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	8	9	17	
36	12月6日	水	16:00～19:30	就職支援セミナー&交流会	16		83	企業等54, 学校関係者13
37	12月6日	火	18:00～20:00	留学生交歓会	111	34	275	地域37, 教職員24, その他69
38	12月9日	金		ホームビジット第2期2日目	1		1	
39	12月11日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	9	9	18	
40	12月18日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	4	9	13	
41	1月13日	金	14:00～16:00	企業見学会	20		22	教職員2
42	1月15日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	3	9	12	
43	1月22日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	6	13	19	
44	1月27日	土	9:00～13:30	30周年記念行事（ホームビジット報告会、作文コンテスト表彰式）	16		102	地域等73, 教職員13
45	1月29日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	3	6	9	
46	2月14日	水	15:00～17:00	修了式&さよならパーティー			60	内訳不明
47	2月5日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会	5		5	
合 計					864	443	1307	

#### 4. 就職支援プログラム

インターナショナルオフィス 高水 徹

平成29年度の本学における留学生を対象とした就職支援のうち、下に「\*」で示すものは日本学生支援機構による「公益財団法人 中島記念国際交流財団助成」の資金を得て実施した。本学が事務局を務める香川県留学生等国際交流連絡協議会による就職支援が、昨年度に引き続き、3年連続で国際交流の事業として採択された。

全学的な学生の就職支援はキャリア支援センターが担当しているが、インターナショナルオフィスも、留学生を対象とした就職支援を行っている。これらの活動により、日本での就職を希望する本学留学生と企業がよりよい形でマッチングされていくことを願っている。

##### (1) 留学生採用支援セミナー&交流会 \*

実施日：平成29年8月4日（金）

概要：本行事前半のセミナーは、企業の留学生採用に資するため企業担当者を対象としたもので、香川県留学生等国際交流連絡協議会と香川大学インターナショナルオフィスの共催で行った。内容は3部構成とし、第1部は高松入国管理局審査部門首席審査官河村氏より就労ビザについて、第2部は行政書士の山田氏より就労ビザへの切替手続きについて、ご講演をいただいた。第3部は留学生との交流会とし、企業担当者と日本企業への就職を希望

する留学生が互いの理解を深めるためのコミュニケーションの場を設けた。留学生にとっては、企業説明会とは違い気軽に質問できることで日本企業への理解がより深まり、大変貴重な機会となった。さらに、本学を含む上記協議会の学校関係者と、企業の主に人事を担当する方々との情報交換も促進された。

(2) 留学生就職活動準備セミナー \*

実施日：平成29年11月6日（金）

概要：就職活動の準備段階と位置づけられる本セミナーでは、地元企業に就職した先輩留学生による就活体験談（有限会社 井上誠耕園 温 超氏）、日本文化基礎講座「食事のマナーについて」（株式会社キャリアプランニング 那須 由美氏）、外国人留学生のための就職ガイダンス（株式会社マイナビ 四国キャリアサポート課 大久保 淳氏）の3つの内容を学ぶことができた。

(3) 留学生採用支援セミナーおよび留学生活用セミナー \*

実施日：平成29年12月6日（水）

概要：今回は、香川県留学生等国際交流連絡協議会、香川大学インターナショナルオフィス、株式会社百十四銀行の3機関による主催という形で実施した。百十四銀行には、昨年度の共催に引き続き、主催という形で関わっていただくことができ、多くの企業が参加した。第1部『就労ビザ取得及び更新に必要なマネジメントとは』では、中野国際法務総合事務所所長の中野辰宏氏にご講演いただいた。制度的な内容のみならず、最前線における実務に基づく、非常に具体的なご経験についてもお話しいただいた。第2部の交流会では、企業の皆様と学生たちの具体的な情報交換をすることができた。

(4) 企業見学会 \*

実施日：平成30年1月12日（金）

概要：本見学会は、県内企業を見学することで日本をよりよく理解し、就職後の自らのワークスタイルを考える契機とすることを目的に実施しているものである。

今年度は、本学学生とも様々な面関わっていただいている株式会社イナダを訪問した。同社の概要をご説明いただき、経営方法を学んだ後、工場を見学し、生産現場を実地に学ぶことができた。特に見学においては、通常なら許可されないような過程も見せていただいた。

（写真は株式会社イナダにて）



(5) ビジネスマナー講座

実施日：平成30年3月8日（木）

概要：本講座は、インターナショナルオフィスによる就職支援の一環として、ビジネスマナーの基礎を留学生に学んでもらうために実施した。講師には、株式会社マイナビ 坂田 隆氏をお招きした。お辞儀の実践の後、就活に関する動画を見てディスカッションしながら、服装、説明会での振る舞い、電子メールなどのビジネスマナーを具体的に学ぶことができた。留学生を対象とし、就活に直結する実践的なマナーを学べる講座としては唯一のものであり、日本式の一斉採用もビジネスマナーも珍しいという状態である留学生にとっては、貴重な機会となった。

## 5. 相談業務

インターナショナルオフィス ロン リム

相談業務は「留学生に関する相談」として開始した。しかし、近年、日本人学生の派遣に関する業務が増えてきており、相談業務も彼らを含めて実施するようになった。

本学の留学生に関する相談担当は、名目上、1名の教員が担当している。しかし実際は、インターナショナルオフィスの教職員全員で対応しているのが現状であると言える。留学生への相談業務の周知方法は、学内掲示板やインターネットによっている。

この報告は、正式に担当している教員1名が受けた相談の記録に基づいたものである。計算の方法は、1回の相談を1件と数えている。相談内容及び深刻さによっては数回に渡って継続するケースもある。相談件数は合計313件となっている。

〈相談方法〉

まず、相談方法（表1参照）としては、「担当教員研究室への来室」「メールでの相談」がもっとも多く、ともに116件だった。次いで、67件が「(研究室以外の)学内での相談」であった。その他、「学外での相談」(7件)「電話」(6件)「ファックス」(1件)による相談があった。

表1 相談方法 (件)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
メール	17	14	15	5	7	11		12		1	18	16	116
電話		2		1	1		1			1			6
ファックス							1						1
来室での相談	12	11	10	20	12	10	12	3	14	5	6	1	116
学内での相談		4	2	2	6	5	14	2	10	16	5	1	67
学外での相談			1			1			1		1	3	7
合計	29	31	28	28	26	27	28	17	25	23	30	21	313

〈相談者〉

相談者別（表2参照）を見ると、「教職員」からの相談件数（151件）がもっとも多かった。二番目に多かったのは、「留学生」からの相談だった（55件）。その他は件数の多い順に、「日本人学生」（43件）、国内外の「外部教職員」（42件）、「一般」の方々（22件）であった。

相談の対象者は留学生と日本人学生であるが、問題処理や対応をするには、教職員との相談が多くなるパターンが自然である。例えば、留学生に係わる人間関係の問題に対応するには、複数の教職員と数回にわたって相談することは必然であろう。同じく日本人学生に係わる留学相談に対応するに

は、教職員と数回にわたって相談をするのが通常である。このため、教職員との相談件数が記録上多くなっている。

表2 相談者 (件)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
留学生	5	3	3	6	11	9		3		1	8	6	55
日本人学生	3	4	4	8	5	6	4		3	3	1	2	43
教職員	12	9	14	10	8	9	20	9	20	17	14	9	151
一般	1	4	1	4		2	4		2	2	1	1	22
外部教職員	8	11	6		2	1		5			6	3	21
合計	29	31	28	28	26	27	28	17	25	23	30	21	313

〈相談内容〉

相談の内容（表3参照）について報告する。二桁の件数を記録したのは、5つの内容だった。多い順に記載すると、「学業関係」（82件）「国際交流・サークル活動」（78件）「学术交流関係」（65件）「情報交換関係」（50件）「生活一般」（18件）である。それ以外の相談内容と件数は、「経済問題」（9件）「人間関係を含めたトラブル関係」（6件）「就職・アルバイト関係」「交通事故」（各2件）「医療関係」（1件）である。

留学生に係わる相談内容は、ここに挙げたほぼすべての項目にわたっている。対して、日本人学生に関する相談内容は主に学業関係と国際交流活動である。

例年と同様に、大半の相談事項は、実際は問題とは言えない軽微なものである。今回の記録において、問題と考えられる事項は、以下であろう。

- 留学生同士による人間関係のトラブル
- 留学生が無断で海外渡航した件
- 留学生がアパートで、夜中、大きな声で叫ぶ騒音問題
- 留学生による寮費の不払い（数か月間で、約10万円）
- 留学生が酒瓶から直接酒を飲んでいる姿が、SNS上の写真に掲載された件

上記の問題は、学生たち本人と直接対話して処理した。

表3 相談内容 (件)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
情報交換関係	6	6	4	4	4	2	6	3	6	3	3	3	50
学業関係	10	3	6	10	9	8	8	8	7	2	4	7	82
医療関係					1								1
生活一般	2	1	3		4	1	3	1		1	2		18
就職・アルバイト								1	1				2
国際交流・サークル活動	4	5	6	9	4	13	6		3	11	13	4	78
学术交流関係	7	12	8	1	4	1	5	4	7	1	8	7	65
経済問題(奨学金、授業料)		3	1						1	4			9
トラブル関係(人間関係)				4		1				1			6
交通事故		1				1							2
合計	29	31	28	28	26	27	28	17	25	23	30	21	313

## 【学生の海外派遣】

### 1. EXPLORE –ブルネイ・ダルサラーム大学及びチェンマイ大学との交換留学制度

インターナショナルオフィス 植村 友香子

#### (1) 概要

本制度は、平成26年度に本学の拠点大学であるブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ・ダルサラーム国）およびチェンマイ大学（タイ王国）への派遣プログラムとして発足した。授業料は相互不徴収（香川大学へのみ納入）となる。

国際的に通用する専門知識と技能、語学力を身につけ、国際化する地域の諸課題を解決する能力を養うことを目的とし、学生は留学先の大学において各自の専攻分野に応じた科目を受講する。留学先で取得した単位は、本学の所属学部における審査を経て、本学の単位として認定することが可能となっている。

項目 \ 大学名	ブルネイ・ダルサラーム大学	チェンマイ大学
募集人数	5名	2～3名
受入学部	全学部	社会科学部、経済学部
留学期間	(第1セメスター) H29年1～12月 (第2セメスター) H30年1～5月	(第1セメスター) H29年8～12月 (第2セメスター) H30年1～5月

#### (2) 平成26年度～28年度派遣

平成26年度からの3年間で、14名の派遣があった。このうち2名はブルネイ・ダルサラーム大学とチェンマイ大学にそれぞれ1セメスターずつ、合わせて2セメスター留学している。この3年間の実績からみると本制度によって留学した学生は経済学部、法学部生に限られている。いわゆる理系学部生は実験や実習、必修授業などのため中・長期の留学が難しいこと、チェンマイ大学の受入学部が社会科学部と経済学部であり、理系学生の専攻に合わないことなどが理由として考えられる。

ブルネイ・ダルサラーム大学		チェンマイ大学	
所属 (学年は留学開始年次)	留学期間	所属 (学年は留学開始年次)	留学期間
法学部 2年	H26.8～H26.12	経済学部 2年	H26.8～H27.1
法学部 2年	H26.8～H26.12	法学部 3年	H27.8～H27.12
経済学部 2年	H26.8～H26.12	法学部 2年	H27.8～H27.12
経済学部 2年	H26.8～H26.12	法学部 2年	H28.8～H28.12
経済学部 2年	H26.8～H26.12	経済学部 2年	H28.8～H28.12
経済学部 2年	H27.8～H27.12	法学部 2年	H29.1～H29.5
法学部 2年	H28.1～H28.5		
法学部 2年	H28.8～H28.12		
法学部 2年	H28.8～H28.12		
法学部 2年	H28.8～H29.5		

### 3. 平成29年度派遣

派遣先大学	所属	留学開始時学年	派遣期間
ブルネイ・ダルサラーム大学	法 学 部	3	H29.8年～H29.12
	経済学部	2	H29.8年～H29.12
チェンマイ大学	経済学部	2	H29.8年～H29.12
	経済学部	2	H29.8年～H29.12
	経済学部	2	H29.8年～H29.12

平成29年度は5名の学生を派遣した。留学に当たっては全員、香川大学グローバル人材育成特定基金またはJASSOの奨学金を得ている。

また、今年度から留学後アンケートを実施し、事前の準備、現地での学習や生活等についての情報を収集するとともに、その内容を、学生の留学前指導やサポート体制に反映させていくこととした。

留学経験を大学での学修や将来のキャリアにどのように位置づけていくかが重要なことであり、そのための、留学前—留学—留学後を包括する指導体制を整えていくことが課題である。

## 2. 「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」による海外派遣

インターナショナルオフィス 植 村 友香子

「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」は、民間企業からの寄付金を原資とし、「産業界を中心に社会で活躍できる人材」「世界で、または世界を視野に入れて活躍できる人材」の育成をめざす海外留学支援制度である。平成25年度に開始され、平成28年度までに本学からは16名が採用されている。

申請にあたっては留学計画を自ら策定し、そこに必ず実践活動を盛り込むことが求められる。語学力や学業成績は第一義的には問われない代わりに、自主性・独創性、人と関わる力や問題解決能力などが求められる。

本支援制度は「全国コース」と「地域人材コース」に大別され、前者はさらに「理系、複合・融合系人材」「世界トップレベル大学」「新興国」「多様性人材」に4コースに分かれており、専門分野や留学内容に合わせて選択し応募する。

「地域人材コース」は、地域の活性化に資する人材育成のための留学支援制度で、自治体単位で運営される。香川県では平成27年度に「香川地域活性化グローバル人材育成プログラム」を開始した。運営母体は香川県知事を代表者とする香川地域人材育成コース協議会で、香川大学国際グループが事務局を担っている。

### ■全国コース

平成29年度は第7期、第8期の募集があり、本学からはそれぞれ4名、7名が応募し、第7期1名、第8期2名の計3名が採用となった。

氏名	コース	所属	学年	派遣先	派遣期間
片山 健太	多様性人材	経済学部	3	アイルランド・フランス・カメルーン	H29.8-H30.9
木下 剛志	理系、複合・融合系人材	農学研究科	1	ガーナ	H30.4-H31.3
橋本 夏帆	多様性人材	経済学部	3	イタリア	H30.6-H31.2



## ■地域人材コース

平成29年度は第7期の募集があり、本学からは4名が応募し、3名が採用された。

氏名	所属	学年	派遣先	派遣期間
中原 花奈	工学部	3	スウェーデン	H29.8 -H29.9
石岡 匠也	工学研究科	1	ドイツ	H29.8 -H30.2
藤田修太郎	農学部	3	インドネシア	H29.9 -H30.8

地域人材コースに関わる行事としては以下を実施した。

### ①派遣留学生帰国報告会（6月26日開催）

アメリカ、タイ、マレーシア、シンガポール、タンザニア、イタリア、メキシコ等において、教育、ビジネス、農業、医療などの領域の活動を行い帰国した6名が、留学を通して得た学びや今後香川でどのように活動していくかについて発表した。川田浩司 香川県審議監を始め、地域企業、県内の高等教育機関等から約50人が参加した。

### ②第7期派遣留学生事前オリエンテーション（7月23日開催）

「学外講師による講義」「派遣留学生たちのプレゼンテーション」「先輩派遣留学生からのアドバイス」という3部構成で、講師として香川県県産品振興課の藤本圭一氏とJR四国・地域連携室の難波恵美氏を招いた。学生は「うちわ」「手袋」「屋島」という香川県に関するテーマについて事前に調査した結果について、英語でプレゼンテーションを行った。講義でもプレゼンテーションでも、活発な意見交換が行われ、地域とのつながりを強めつつ留学の意義を問い直す機会となった。

### ③第7期派遣留学生壮行会（8月9日開催）

長尾省吾学長、浜田恵造協議会会長を始め、文部科学省、地域企業、県内の高等教育機関等から約50人が参加した。派遣留学生は支援企業代表（JR四国 大熊伸二氏）、先輩派遣留学生（第4期宇野満里加さん）、うどん県副知事の本内晶子さんから激励を受けるとともに、留学で何を学び、どう香川に貢献するかについて決意表明を行った。また、本内さんからは、派遣留学生が留学や県内インターンシップを通して香川と世界をつなぐ役割を果たすことを期待して「Student Ambassador of Kagawa」の委嘱を受けた。



### 3. 全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」(台湾における研修)

インターナショナルオフィス 高水 徹

#### (1) 概要

インターナショナルオフィスは、海外における異文化体験を通して国際コミュニケーション力を養うことを目的として、全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」を提供している。1期生から5期生までの研修はタイのチェンマイ大学において実施したが、平成29年度は、近年本学が連携を強化しつつある、台湾の国立嘉義大学の協力を得て、初めて同大学において研修を実施した。実施に際しては、同大学の教職員の皆様に加え、台湾人の学生2名と、正規生として留学している2名の日本人学生がバディーとして手厚い支援を提供してくれた。

#### (2) 第6期実施内容

研修期間：8月19日(土)～9月3日(日)

参加学生：法学部1名、教育学部2名、工学部2名の計5名(2年生1名、1年生4名)

##### ①事前研修

出発前には、15回の授業時間を使い、以下の内容で事前研修を行った。

第1回	プログラム構成の説明、アイスブレイキング
第2回	自己紹介、現地でのプログラム内容、嘉義大学、嘉義市、嘉義周辺の紹介
第3～4回	台湾に関する基本情報(地形、気候、産業、宗教、歴史、経済、社会等)
第5回	国際協力を考える
第6回	嘉義大学の留学生による台湾についての講習会
第7～8回	嘉義大学の留学生による中国語の講習会
第9回	航空券、パスポートの確認など
第10～15回	香川県、高松市、香川大学紹介の発表練習

##### ②現地での研修

日本出発及び台湾到着は平成29年8月19日(土)で、翌日に台北で研修(故宫博物院見学等)を行った後、8月21日(月)に嘉義市に移動して同大学での研修を開始した。

##### 現地日程表

日付	曜日	時間	活 動
8/19	土	19:05	高松発(CI0179)
			台北着(20:45)、チェックイン
8/20	日		故宫博物院見学
			士林夜市見学
8/21	月	10:48	嘉義駅着(HSR)
			Campus Tour、嘉義大学昆虫博物館の研修・見学
8/22	火	午前	中国語
		午後	新民キャンパス周辺ツアー、日常生活用品店の案内
8/23	水	午前	中国語
		午後	文化研修(印鑑作り)

8/24	木	午前	中国語
		午後	TK Food工場の研修・見学、文化路夜市の研修・見学
8/25	金	午前	中国語
		午後	文化研修（書道）
8/26	土	午前	配南宮と周辺の朝市の研修・見学
		午後	Free time
8/27	日	午前	東朝市、嘉義城隍廟、嘉義公園
		午後	嘉義市刑務所の研修・見学
8/28	月	午前	新民キャンパスからランタンキャンパスへ移動
		午後	檜意森活村Hinoki Park の研修・見学
8/29	火	午前	中国語
		午後	金柑農場・パイナップルケーキ工場の研修・見学
8/30	水	午前	中国語
		午後	愛木村でDIY 体験、北門駅の研修・見学
8/31	木	午前	嘉義故宮の研修・見学
		午後	最終成果発表の準備
9/1	金	午前	成果発表、送別会
		午後	嘉義から台北へ移動、九份の研修・見学
9/2	土	午前	龍山寺の研修・見学
		午後	101タワーの研修・見学
9/3	日	午前	プログラムの反省会
		14:30	台北発（CI0178）、高松着

上記の通り、中国語授業や台湾文化に関する授業、各種フィールド学習、現地の企業等見学などの多様な内容が含まれていた。同大学における研修は9月1日（金）に、研修生による最終発表をもって終了し、台北に移動、研修後、9月3日（日）に帰国した。

### ③事後研修

研修後には、最終報告書を作成し提出させた。11月13日（月）に、本学学習ラウンジにて、研修報告を行った。

### (3) 必要経費（主要な部分）

航空券：55,460円

高速鉄道：NT\$ 2,160

嘉義大学における研修費：NT\$ 15,000

（現地交通費、昼食代、宿泊費、見学科等を含む）

上記の他に、台北における滞在費、食費、海外旅行保険等が必要である。



嘉義大学における開講式後の記念写真

本研修における体験が本学自体の国際化につながり、さらにそのことが、同大学へも含めた本学学生のより長期の留学につながればと考えている。今後も本プログラムを通して、学生交流の面から、本学と同大学との交流を一層強化していく所存である。

### 第1回から第6回までの参加者数一覧

No.	期間	経済	教育	法	工	農	医	男子	女子	1年生	2年生	合計
1	平成24年8月22日 ～9月2日	3	1	1		1		3	3	5	1	6
2	平成25年9月1日 ～14日	3	1	1	1			4	2	5	1	6
3	平成26年8月24日 ～9月6日		2	4		1	1	4	4	4	4	8
4	平成27年8月23日 ～9月5日		4	2				2	4	2	4	6
5	平成28年8月14日 ～8月26日		4	2				2	4	2	4	6
6	平成29年8月19日 ～9月3日		2	1	2			2	3	4	1	5

## 4. 全学共通科目「Study Abroad」

インターナショナルオフィス 植村 友香子

### (1) 概要

本科目は「高度教養教育科目・広範教養教育科目」の「上級英語」として平成25年度より開講されている。本学の学術交流協定校である西オーストラリア大学（以下UWA）かカルガリー大学においてネイティブ教員による研修を受け、英語の運用能力を磨くことを目的としているが、カルガリー大学の語学研修は日程の関係上、参加が難しく、実質的にはUWAへの派遣となっている。現地ではオーストラリアの一般家庭にホームステイし、生活の中でも英語を学ぶ。

### (2) 実施内容

参加学生：2名（教育学部1名、経済学部1名）

渡航期間：2018年2月10日～3月17日

本科目は香川大学において実施する「事前研修」、UWAの英語教育センター(Centre for English Language Teaching、以下CELT)での「海外研修」、成果報告を行う「事後研修」から構成されている。指導はインターナショナルオフィスの派遣担当教員とネイティブ教員の2名で担当した。

#### ①事前研修

10月10日（火）	ガイダンス 全体スケジュール・必要書類・授業登録
10月25日（水）	(1) 概要説明・応募書類確認
11月8日（水）	(2) 自分について語る
11月第3週	プレイスメント・テスト（オンライン）
11月22日（水）	(3) 香川について語る
12月13日（水）	(4) オーストラリアの社会・文化・生活について語る
1月24日（水）	(5) 危機管理学習（DVD）
各種手続き	CELT申込み（Application form、ID用写真、パスポート）、 VISA取得 授業料等支払い 航空券手続き 海外旅行保険手続き ホームステイ申請「海外研修参加申込書」

事前研修は集中講義として、随時実施した。申込段階でCELTからは香川大学用に作成された32ページの詳細な説明書が送られており、それを教材として用いて、プログラムの概要、申し込み手続

き書類、現地の状況、ホームステイの注意などを周知した。また、英語による基本的コミュニケーションの練習として、自分自身、香川、オーストラリアについて語るプレゼンや会話練習を行った。なお、海外渡航学生は大学主催の危機管理セミナーを受けなければならないが、出発日がそれ以前とになってしまうため、DVDを用いての危機管理学習を行った。

事前のプレイスメント・テストはCELTから実施方法について指示があり、オンラインで行う。この結果に基づいて英語力に応じたクラスへ振り分けられることになっている。

## ②海外研修（期間：2018年2月12日～3月16日）

履修学生はCELTにて、5週間のGeneral Englishコース（授業は1週20時間）で英語を学んだ。研修期間中は、毎月曜日に前週の学習および生活について記したウィークリーレポートを提出させ、学習の進捗状況および日常生活の様子を教員が把握するようにした。このウィークリーレポートは、帰国後提出する成果報告書の一部とした。

## ③事後研修

3月26日（月）	成果報告書提出期限
5月14日（月）	成果発表会（English Caféでのランチ・プレゼンテーション）

成果報告書（最終レポート）は帰国後一週間以内に提出することとした。これは3月の年度内に成績登録を行う必要があるためである。成績は、事前研修への取り組み・UWAが発行する成績証明書・最終レポートを合わせて総合的に評価した。

また、成果発表会として、次年度になってからEnglish Caféで英語によるプレゼンを行った。

## (3) 参加費用

学費	入学科：\$220 授業料：\$1500（香川大学生は20%オフ） 教材費：\$100
現地交通費	Travel Pass：\$90
ホームステイ	\$1375（5週間、個室、平日2食・週末3食付き） ホームステイ登録料：\$265
空港送迎	\$175
渡航費用	航空運賃：約17万円（変動あり） 海外旅行保険：約12000円

なお、課外教育行事が実施されることもあるが、これは研修経費には含まれていないものもあり、別途、現地で申込み手続きが必要である。

## 5. 海外語学研修プログラム（韓国語）

インターナショナルオフィス 高水 徹

派遣先：大邱大学（韓国）

研修期間：8月7日～8月25日

参加者：1名

平成27年度以降、インターナショナルオフィスが担当する韓国語研修で本学の学生が参加可能な研修先は、プログラム時期等の制約により、実質的に学术交流協定校の大邱大学のみとなっている。

同大学における研修は、本学の学生にとって①研修費および宿舎の費用が不徴収、②学習に集中できる環境が整っている、という点で非常に好条件である。①に関しては、同大学から本学への特別聴講学生（交換留学生）の授業料が不徴収となる見返りに、本学から同大学への短期研修の費用が不徴収になる、という覚書に基づいている。②に関しては、本学から韓国語研修へ行く学生は、集中的な学習を望むケースが多かったため、郊外の落ち着いた環境にある同大学での研修は非常に好評であった。

しかしながら、29年度については、大邱大学から本学への特別聴講学生がいなかったため、学生は上記の恩恵を受けることができないという条件下での募集となった。このように例年とは募集条件が大きく異なるため、積極的な募集を行っていなかった。

そのような状況において、プログラムへの参加を強く希望した1名の学生（農学部3年）を派遣することができた。

研修日程は平成29年8月7日（月）から8月25日（金）の3週間で、課外授業や見学に参加しながら韓国語を学習するプログラムである。初日にはレベル分けのテストを行う。

本研修の経費としては、研修費および航空券、交通費、食費、その他雑費が必要である。また、教員による引率はなく、現地まで自分で行って、帰ってくるプログラムである。以前はプサン空港への出迎えが行われていたが、今回から出迎えは大邱空港となった。

学生の宿泊先は寮で、食費も安く、学食で1食約2000ウォンから4500ウォン程度で済む。パソコンを持っていけば、インターネットに接続することも可能である。

学生は無事に研修を終え、帰国した。元々、最後のチャンスなので、上記の条件を承知の上で参加した研修であったが、非常に充実した3週間であった旨報告を受けた。



大邱大学の寮

([https://daegu.ac.kr/resources/images/lan/contents/dormitory\\_img02.jpg](https://daegu.ac.kr/resources/images/lan/contents/dormitory_img02.jpg))

資料1 学術交流協定一覧

(2018年3月31日現在)

●大学間協定〔18カ国・地域, 58機関〕

○全ての学部について可、●一部の学部について可

	機 関 名	国・地 域 名	締結年月日	交 流 内 容			
				研 究 者	学 生	単 位 認 定	授 業 料 不 徴 収
1	カセサート大学	タイ王国	1988年8月25日 再締結('99/1/20)	○	○	●	●
2	チェンマイ大学	タイ王国	1990年4月24日	○	○	○	○
3	ルイビル大学	アメリカ合衆国	1997年9月2日	○	○	●	-
4	サボア・モンブラン大学	フランス共和国	2000年3月24日	○	○	○	○
5	南京農業大学	中華人民共和国	2001年7月4日	○	○	○	○
6	ミュンヘン工科大学	ドイツ連邦共和国	2002年2月13日	○	○	○	○
7	メチョー大学	タイ王国	2002年3月7日 再締結('11/11/22)	○	○	○	○
8	国立政治大学	台湾	2002年3月19日	○	○	○	○
9	ラインマイン大学	ドイツ連邦共和国	2002年9月23日	○	○	○	○
10	コロラド州立大学	アメリカ合衆国	2002年10月8日 再締結('12/10/1)	○	○	○	○
11	韓国海洋大学	大韓民国	2002年12月18日	○	○	○	○
12	上海大学	中華人民共和国	2003年9月1日 再締結('14/1/3)	○	○	○	○
13	ハルビン工程大学	中華人民共和国	2005年2月23日	○	○	○	○
14	大邱大学	大韓民国	2005年5月17日	○	○	○	○
15	カディス大学	スペイン	2006年1月31日	○	○	●	●
16	中国海洋大学	中華人民共和国	2006年12月19日	○	○	●	●
17	真理大学	台湾	2007年6月11日	○	○	○	○
18	西北大学	中華人民共和国	2007年10月17日	○	○	○	○
19	南ボヘミア大学	チェコ共和国	2008年11月12日 再締結('13/11/15)	○	○	-	●
20	ハンバット大学	大韓民国	2008年11月14日	○	○	○	○
21	電子科技大学	中華人民共和国	2009年6月1日	○	○	○	○
22	天津農学院	中華人民共和国	2009年6月4日	○	○	○	○
23	フランシュ・コンテ大学	フランス共和国	2009年7月24日	○	○	○	○
24	ブルネイ・ダルサラーム大学	ブルネイ・ダルサラーム国	2009年11月8日	○	○	○	○
25	チュラロンコン大学	タイ王国	2010年2月1日	○	○	○	○
26	シレバングラ農科大学	バングラデシュ人民共和国	2010年5月10日	○	○	○	○
27	コンピエーニュ工科大学	フランス共和国	2010年7月8日	○	○	○	○
28	トリブバン大学	ネパール連邦民主共和国	2010年11月2日	○	○	○	○
29	ムルシア大学	スペイン	2010年12月9日	○	○	○	○
30	バタンパン大学	カンボジア王国	2010年12月9日	○	○	○	○
31	王立農業大学	カンボジア王国	2010年12月13日 再締結('15/11/19)	○	○	○	○
32	誠信女子大学	大韓民国	2011年2月21日	○	○	○	○
33	セントピーターズバーグ大学	アメリカ合衆国	2011年2月28日	○	○	-	-
34	リモージュ大学	フランス共和国	2011年3月14日	○	○	○	○
35	北京外国語大学	中華人民共和国	2011年3月29日	○	○	-	-
36	長春理工大学	中華人民共和国	2012年1月16日	○	○	○	○
37	浙江工商大学	中華人民共和国	2012年5月7日	○	○	○	○
38	天津理工大学	中華人民共和国	2012年10月25日	○	○	○	○
39	カリフォルニア州立大学 フラトン校	アメリカ合衆国	2012年11月9日	○	○	-	-
40	パリ電子電気工学技術高等学院	フランス共和国	2012年11月19日	○	○	○	○
41	ガジャマダ大学	インドネシア共和国	2013年1月31日	○	○	●	●

42	ディボネゴロ大学	インドネシア共和国	2013年2月4日	○	○	○	○
43	州立ロンドリーナ大学	ブラジル連邦共和国	2013年3月11日	○	○	○	○
44	国立嘉義大学	台湾	2013年4月25日	○	○	○	○
45	高等機械大学院大学	フランス共和国	2013年5月24日	○	○	○	○
46	ガイゼンハイム大学	ドイツ連邦共和国	2013年7月15日	○	○	○	○
47	第四軍医大学	中華人民共和国	2014年5月27日	○	○	○	○
48	ハノイ工科大学	ベトナム社会主義共和国	2015年9月24日	○	○	○	○
49	アサンプション大学	タイ王国	2015年11月19日	○	○	○	○
50	ハルムスタッド大学	スウェーデン王国	2015年12月15日	○	○	○	○
51	聖公会大学校	大韓民国	2016年5月25日	○	○	○	○
52	東西大学校	大韓民国	2016年5月26日	○	○	○	○
53	シラパコーン大学	タイ王国	2016年6月15日	○	○	○	○
54	エッカード大学	アメリカ合衆国	2017年4月28日	○	○	-	-
55	中国文化大学	台湾	2017年8月1日	○	○	○	○
56	台湾中央気象局	台湾	2017年8月16日	○	-	-	-
57	中東工科大学	トルコ	2017年10月31日	○	○	○	○
58	カリフォルニア大学デービス校 カリフォルニア大学理事会	アメリカ合衆国	2018年2月14日	○	○	-	-

●部局間協定〔15カ国・地域、28機関〕

部局名	機関名	国・地域名	発効年月日	交流内容				
				研究者	学生	単位認定	授業料不徴収	
1	教育学部	清州大学 人文学部	大韓民国	2001年 7月9日	○	○	○	○
2	教育学部	アラ・インスティテュート・ オブ・カンタベリー	ニュージーランド	2002年1月23日 再締結('16/12/1)	○	○	○	○
3	教育学部 大学院教育学研究科	江西師範大学 国際教育学院	中華人民共和国	2005年2月25日 再締結('14/9/2)	○	○	○	○
4	教育学部	ガウハチ大学地理学科	インド	2015年 8月3日	○	○	-	-
5	教育学部	インド工科大学グワハチ校	インド	2015年 8月5日	○	○	-	-
6	教育学部	ノースイースタンヒル大学 地理学科	インド	2015年 10月23日	○	○	-	-
7	法学部 大学院法学研究科	上海社会科学院法学研究所	中華人民共和国	1996年 9月2日	○	○	-	-
8	法学部 大学院法学研究科	華東政治法律大学	中華人民共和国	1996年 9月5日	○	○	○	○
9	医学部	カルガリー大学 医学部	カナダ	1989年 7月31日	○	○	○	○
10	医学部	中国医科大学	中華人民共和国	1997年 8月28日	-	○	○	○
11	医学部	河北医科大学	中華人民共和国	2001年 11月27日	○	○	○	○
12	医学部	ブルネイ・ ダルサラーム国保健省	ブルネイ・ダルサラーム国	2009年 12月5日	○	○	-	-
13	工学部 大学院工学研究科	ボン＝ライン＝ズィーク 大学	ドイツ連邦共和国	2002年2月12日 再締結('13/5/19)	○	○	○	○
14	工学部 大学院工学研究科	国立高等精密機械大学院 大学	フランス共和国	2009年 1月28日	○	○	○	○
15	工学部 大学院工学研究科	トレド大学	アメリカ合衆国	2009年3月30日 再締結('12/11/8)	○	○	-	-
16	工学部 大学院工学研究科	ラップランド応用科学大学	フィンランド共和国	2009年6月1日 再締結('14/7/28)	○	○	○	○
17	工学部 大学院工学研究科	漢陽大学工学部及びブレイン・ コリア21機械工学科	大韓民国	2010年4月14日 再締結('16/3/17)	○	○	○	○
18	工学部 大学院工学研究科	北京師範大学 化学学院	中華人民共和国	2012年 3月31日	○	○	○	○



19	工学部 大学院工学研究科	北京理工大学生命学院	中華人民共和国	2012年 10月24日	○	○	○	○
20	工学部 大学院工学研究科	アルビ鉱山大学	フランス共和国	2016年 4月1日	○	○	○	○
21	工学部 大学院工学研究科	宝鶏文理学院化学化工学院	中華人民共和国	2016年 12月19日	○	○	○	○
22	農学部 大学院農学研究科	ダッカ大学 生物科学部	バングラデシュ人民共和国	1998年 12月15日	○	○	○	○
23	農学部 大学院農学研究科	ミシガン州立大学 農学・自然資源学部	アメリカ合衆国	1999年 3月22日	○	○	○	○
24	農学部 大学院農学研究科	ボゴール農業大学 農学部、大学院研究科	インドネシア共和国	2000年 6月13日	○	○	○	○
25	農学部 大学院農学研究科	西オーストラリア大学 自然科学・農学部	オーストラリア連邦	2002年 3月28日	○	○	-	-
26	農学部 大学院農学研究科	ブルゴーニュ大学 アグロスツップ校	フランス共和国	2010年 6月1日	○	○	○	○
27	大学院地域 マネジメント研究科	ナポリ フェデリコ2世大学 農学部	イタリア共和国	2015年 3月13日	○	-	-	-
28	四国危機管理教育・研 究・地域連携推進機構	国立中正大学 地球・環境科学部	台湾	2017年 8月18日	○	-	-	-

### ●連携協力協定〔5件〕

協定	連携協力機関	国・地域名	締結年月日
1 国際メカトロニクス研究教育機 構に関する一般協定	サボア・モンブラン大学、国立高等精密機 械大学院大学、フランシュ・コンテ大学、 電気通信大学、東京電機大学、 首都大学東京、産業技術大学院大学、 高等機械大学院大学、リモージュ大学、 コンピエーニュ工科大学、三重大学	フランス共和国 日本	2009年1月30日
2 地球ディベロプメントサイエン ス国際コンソーシアムの発展に 関する一般協定	グラム・バングラ	バングラデシュ 人民共和国	2010年2月16日 再締結 (2015年2月10日)
3 熱帯農業に関するSUIJI (Six University Initiative Japan Indonesia) コンソーシアム協定	ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、 ハサヌディン大学、愛媛大学、高知大学	インドネシア 日本	2011年3月16日
4 国際交流訪問者プログラムに関 する覚書	フロリダ・バレンシア大学地区理事会 及び大学生協中国四国事業連合	アメリカ合衆国 大学生協中国四国 事業連合	2015年4月24日
5 JICA四国と国立大学法人香川 大学との連携協力の推進に関す る覚書	JICA四国	日本	2016年3月16日

## 資料2 香川大学インターナショナルオフィス規則

### (趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人香川大学組織規則第18条の2の規定に基づき、香川大学インターナショナルオフィス（以下「オフィス」という。）に関し必要な事項を定める。

### (目的)

第2条 オフィスは、香川大学（以下「本学」という。）の国際交流の窓口機関として、情報収集及び発信を一元化すると共に、国際戦略の構築並びに教育研究等の国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進することで、本学並びに地域の国際交流の推進に資することを目的とする。

### (構成)

第3条 オフィスは前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる組織を置く。

- (1) 国際研究支援センター
- (2) 留学生センター

2 前項の組織に関し必要な事項は別に定める。

### (業務)

第4条 オフィスはオフィスを構成する組織の相互の連携協力を図ると共に、次に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の国際化基本方針に基づき、国際交流に係る企画及び立案に関すること。
- (2) 国際交流協定の締結、その他の外国の機関との交流に関すること。
- (3) 国際交流活動に係る情報を収集・分析し、国際交流の推進に必要となる情報を学内外へ提供し、国際的な情報発信の強化に関すること。
- (4) 国際交流推進事業展開のための外部資金獲得に関すること。
- (5) 地域における国際交流の支援に関すること。
- (6) 国際交流に係る危機管理に関すること。
- (7) その他オフィスの管理・運営並びに本学の国際交流推進に関し必要な業務に関すること。

### (組織)

第5条 オフィスは、次の各号に掲げる者で組織する。

- (1) オフィス長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員

2 オフィスに副オフィス長を置くことができる。

3 オフィスに、部局に所属しオフィスの業務を兼任する教員（以下「兼任の教員」という。）を置くことができる。

### (オフィス長)

第6条 オフィス長の任命は、本学理事及び職員の中から学長が指名する理事又は副学長（以下「担

当理事又は副学長」という。)の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 オフィス長は、オフィスの業務を掌理する。
- 3 オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 4 前項の規定にかかわらず、オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(オフィス長の選考時期)

第7条 オフィス長の選考は、次の各号の1に該当する場合に行う。

- (1) 任期が満了するとき。
- (2) 辞任を申し出たとき。
- (3) 欠員となったとき。

2 オフィス長の選考は、前項第1号の場合には任期満了の1月以前に、同項第2号又は第3号の場合には速やかに、行うものとする。

(副オフィス長)

第8条 副オフィス長の任命は、本学教職員の中から当理事又は副学長の申し出に基づき、学長が行う。

- 2 前項の申し出はオフィス長が副オフィス長候補者を当理事又は副学長に推薦することにより行う。
- 3 副オフィス長はオフィス長の業務を補佐する。
- 4 副オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 5 前項の規定にかかわらず、副オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第9条 専任教員の選考に関し必要な事項は別に定める。

(兼任の教員)

第10条 兼任の教員は、本学専任教員で国際交流の推進に関し専門的知識及び経験を有する者のうち、当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が委嘱する。

- 2 兼任の教員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、兼任の教員を指名する学長の任期の末日以前とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、兼任の教員が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第11条 オフィスに、オフィスの重要事項を審議するため、香川大学インターナショナルオフィス会議(以下「オフィス会議」という。)を置く。ただし、オフィス会議の議決事項については、担

当理事の承諾を経て決定されるものとする。

2 オフィス会議に関し必要な事項は担当理事が別に定める。

(事務)

第12条 オフィスの事務は、部局の協力を得て国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第13条 この規則に定めるもののほか、オフィスの業務に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成21年10月1日）

1 この規則は、平成21年10月1日から施行する。

2 第11条の担当理事は、当分の間、担当副学長と読み替えて適用する。

附 則（平成23年5月1日）

この規則は、平成23年5月1日から施行する。

### 資料3 香川大学インターナショナルオフィス会議規程

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）

第11条に規定する香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 オフィス会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) オフィス長
- (2) オフィス規則第5条第2項に定める副オフィス長
- (3) オフィス規則第3条第1項に定める組織の長
- (4) 専任教員
- (5) オフィス規則第5条第3項に定める兼任の教員
- (6) 教育・学生支援部長
- (7) 学術部長
- (8) 国際グループリーダー
- (9) その他オフィス長が必要と認めた者

2 前項第9号の委員は、学長が任命する。

(審議事項)

第3条 オフィス会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の企画・推進に関する事項
- (2) 規則その他の制定又は改廃に関する事項
- (3) 組織の設置又は廃止に関する事項
- (4) 教員の選考に関する事項
- (5) 予算及び施設・設備に関する事項
- (6) 評価に関する事項
- (7) その他オフィス長が必要と認める事項

(会議の主宰及び議長)

第4条 オフィス会議に議長を置き、オフィス長をもって充てる。ただし、オフィス長に事故あるときは、あらかじめオフィス長の指名した者がその職務を代行する。

2 議長は、オフィス会議を主宰する。

3 オフィス会議は、議長の招集により開催するものとする。

(会議の議事運営)

第5条 オフィス会議は、構成員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

2 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 第3条第1項第4号及び第6号の議事については、第2条第1項第9号の委員は可否の数にかか

わることができない。

4 第2項にかかわらず、特別の必要があるとオフィス会議が認めるときは、第2項に定める要件以外の定めをすることができる。

(構成員以外の者の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、オフィス会議の承認を得て、構成員以外の者を会議に出席させることができる。ただし、この者は、可否の数に加わることができない。

(事務)

第7条 オフィス会議の事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、オフィス会議の議事及び運営の方法について必要な事項は、オフィス会議が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年10月1日)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

## 資料4 香川大学国際研究支援センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）

第3条第2項の規定に基づき、香川大学国際研究支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、香川大学（以下「本学」という。）における国際的な研究交流の支援及び本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の実施について中心的な役割を果たすことにより、本学における国際的な学術交流の推進に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 特色ある国際共同研究及び国際展開プロジェクトの企画・開発及び推進に関すること。
- (2) 海外の研究機関との交流に関すること。
- (3) 海外学術ネットワークの強化に関すること及び海外の学術動向に関する調査に関すること。
- (4) 海外教育研究拠点校との学術交流の支援に関すること。
- (5) 各部局が実施する学術交流の支援に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な業務。

(職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター担当教員
- (3) その他必要な職員

2 センターに、副センター長を置くことができる。

(センター長)

第5条 センター長の任命は、本学職員の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

4 前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学

長の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。
- 3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。
- 4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 5 前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター担当教員)

第7条 センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の下承を得てオフィス長が行う。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年10月1日)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

附 則 (平成23年5月1日)

この規程は、平成23年5月1日から施行する。



## 資料5 香川大学留学生センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）

第3条第2項の規定に基づき、香川大学留学生センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、外国人留学生（以下「留学生」という。）及び海外留学を希望する香川大学（以下「本学」という。）の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 留学生の受け入れに関する事。
- (2) 留学生に対する日本語等の教育に関する事。
- (3) 留学生に対する修学上及び生活上の指導助言等に関する事。
- (4) 留学生に係る奨学に関する事。
- (5) 留学終了者に対するフォローアップに関する事。
- (6) 学生の海外留学に関する事。
- (7) 地域における留学生交流に関する事。
- (8) 留学生教育等に係る調査研究に関する事。
- (9) 留学生会館の管理・運営並びに入退居に関する事。
- (10) その他センターの管理・運営並びに学生の国際交流に関する事。

(職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター担当教員
- (3) その他必要な職員

2 センターに、副センター長を置くことができる。

(センター長)

第5条 センター長の任命は、本学専任教授の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

4 前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期

は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。
- 3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。
- 4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 5 前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター担当教員)

第7条 センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年10月1日)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

資料6 インターナショナルオフィス教職員一覧

2017.10.1

《インターナショナルオフィス》

(兼) オフィス長／徳田 雅明  
 (兼) 副オフィス長／教授／ロン リム  
 客員教授／野田 久尚  
 講師／高水 徹  
 講師／塩井 実香  
 特命講師／植村 友香子  
 非常勤教員／町原 友梨  
 非常勤教員／マーク・アンダーソン

《国際グループ》

リーダー／長竹 善伸  
 サブリーダー／笹嶋 孝司  
 チーフ (国際交流業務)／上田 幸司  
 チーフ (留学生業務)／浅野 文恵  
 チーフ (留学生業務)／坂本 愛  
 グループ員 (留学生業務)／福家 徹也  
 グループ員 (国際交流業務)／土屋 麻美  
 グループ員 (留学生業務)／高尾 さやか

(兼) 教授／寺尾 徹 (教育学部)  
 (兼) 教授／大賀 睦夫 (経済学部)  
 (兼) 教授／和田 健司 (医学部)  
 (兼) 教授／松島 学 (工学部)  
 (兼) 教授／川村 理 (農学部)  
 (兼) 准教授／小澤 久二男 (法学部)  
 (兼) 准教授／佐藤 勝典 (地域マネジメント研究科)

《インターナショナルオフィス》

グループ員 (留学生会館業務)／多田 利子  
 グループ員 (花園寮業務)／小林 華子

〈留学生センター〉

(兼) 留学生センター長／ロン リム  
 非常勤講師／秋田 節子  
 非常勤講師／黒川 祐三子  
 非常勤講師／和田 方子  
 非常勤講師／児島 由佳  
 非常勤講師／早川 理代

※ (兼) は兼任を示す

香川大学インターナショナルオフィス年報 第9号 (2017年度)

発行 平成30年11月30日

発行者 香川大学インターナショナルオフィス  
〒760-8521 香川県高松市幸町1-1

TEL : 087-832-1194

FAX : 087-832-1192

印刷所 株式会社ムレコミュニケーションズ

TEL : 087-822-2600 (代)

FAX : 087-822-0567, 826-1448